

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第526集

くらさわ く  
倉沢3区 I・II 遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道釜石秋田線新直轄事業関連遺跡発掘調査

2009

国土交通省東北地方整備局  
岩手河川国道事務所  
(財)岩手県文化振興事業団

# 倉沢3区 I・II 遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道釜石秋田線新直轄事業関連遺跡発掘調査

## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県上づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、東北横断自動車道釜石秋田線新直轄事業に関連して平成19年度に発掘調査された倉沢3区Ⅰ遺跡と倉沢3区Ⅱ遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では、縄文時代の土坑・陥し穴状遺構、平安時代の竪穴住居跡をはじめとする各種の遺構が検出され、集落の姿が明らかになるとともに、土器、石器などの遺物も出土いたしました。当地域における歴史を解明する上で貴重な資料を提供することができたと考えております。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北整備局岩手河川国道事務所、花巻市教育委員会を初めとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成21年1月

財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 武田 牧雄

## 例 言

- 1 本報告書は、岩手県花巻市東和町倉沢3区89ほかに所在する倉沢3区Ⅰ遺跡と、同倉沢3区175ほかに所在する倉沢3区Ⅱ遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
- 2 岩手県遺跡登録台帳における遺跡番号・調査略号は次のとおりである。  
倉沢3区Ⅰ遺跡 遺跡番号：NE49-2021/遺跡略号：KS3Ⅰ-07  
倉沢3区Ⅱ遺跡 遺跡番号：NE49-2041/遺跡略号：KS3Ⅱ-07
- 3 本遺跡の発掘調査は、東北横断自動車道釜石秋田線新直轄事業に伴い、岩手県教育委員会の調整を経て、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所の委託を受けた(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。
- 4 野外調査及び室内整理期間(調査面積)担当者は次のとおりである。  
倉沢3区Ⅰ 野外調査 平成19年5月8日～6月15日(2,523㎡) 中村絵美・太田代一彦  
室内整理 平成19年11月16日～平成20年1月31日 太田代一彦  
倉沢3区Ⅱ 野外調査 平成19年4月9日～5月31日(2,212㎡) 中村絵美・太田代一彦  
室内整理 平成20年2月1日～3月15日 太田代一彦
- 5 基準点測量は有限会社島設計事務所、航空写真撮影は東邦航空株式会社に委託した。
- 6 本報告書の執筆は、中村絵美・太田代一彦が担当した。Ⅱ章、Ⅳ章2(1)4号土坑、(2)、(4)、(5)2号掘出柱建物跡を太田代、これ以外は中村が執筆している。
- 7 分析・鑑定・委託業務は次の機関に委託した(順不同・敬称略)。  
石質鑑定 花崗岩研究会  
炭化材同定 阿部利古(前岩手県木炭協会)
- 8 野外調査では、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、東日本高速道路株式会社、花巻市教育委員会ならびに遺跡周辺住民の方々より多大なるご協力を得た。
- 9 土層の観察は、『新版標準土色帖』(小山・佐竹：1989)によった。
- 10 基準点および調査区内のグリッド杭の打設には、平面直角座標第Ⅹ系(世界測地系)を用いた。
- 11 調査結果の一部は現地説明会資料や調査概報等にてその時点の概略を公表しているが、本書との記載事実が異なる場合は、すべて本報告書を優先する。
- 12 本遺跡の出土遺物及び諸記録類は岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

# 目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の立地と環境	
1	遺跡の位置と地理的環境	1
2	歴史的環境	4
III	野外調査と室内整理の方法	
1	野外調査	
(1)	調査面積	8
(2)	グリッドの設定	8
(3)	粗掘り・遺構検出	8
(4)	遺構名のつけ方	8
(5)	遺構精査・遺物の取り上げ	9
(6)	実測	9
(7)	写真撮影	9
2	室内整理	
(1)	遺物の処理	9
(2)	遺構の処理	9
(3)	図版の処理	9
IV	倉沢3区I遺跡の調査	
1	遺跡の立地と基本層序	
(1)	遺跡の立地	12
(2)	基本層序	12
2	検出遺構と出土遺物	
(1)	竪穴住居跡	14
(2)	土坑	14
(3)	溝跡	16
(4)	柱穴列・柱穴	33
(5)	墓塚	36
(6)	出土遺物	36
3	まとめ	40
V	倉沢3区II遺跡の調査	
1	遺跡の立地と基本層序	
(1)	遺跡の立地	57
(2)	基本層序	57
2	検出遺構と出土遺物	
(1)	土坑	59
(2)	陥し穴状遺構	64
(3)	カマド状遺構	64
(4)	溝跡	70
(5)	掘立柱建物跡・柱穴	70
(6)	出土遺物・湿地	81
3	まとめ	81
	報告書抄録	99

## 図版目次

第1図 遺跡位置図	2	第19図 出土遺物	37
第2図 周辺の地形分類図	3	<倉沢3区II>	
第3図 周辺の遺跡	5	第20図 基本土層図	57
第4図 凡例	10	第21図 調査区全体図	58
第5図 グリッド設定図	11	第22図 土坑(1)	60
<倉沢3区I>		第23図 土坑(2)	62
第6図 基本土層図	12	第24図 土坑(3)	63
第7図 調査区全体図	13	第25図 陥し穴状遺構	65
第8図 1号竪穴住居跡	15	第26図 カマド状遺構(1)	67
第9図 土坑	17	第27図 カマド状遺構(2)	68
第10図 溝跡・柱穴(1)	24	第28図 カマド状遺構(3)	69
第11図 溝跡・柱穴(2)	25	第29図 1号溝跡・1号掘立柱建物跡	71
第12図 溝跡・柱穴(3)	26	第30図 2号掘立柱建物跡	73
第13図 溝跡・柱穴(4)	27	第31図 柱穴配置図(1)	74
第14図 溝跡・柱穴(5)	28	第32図 柱穴配置図(2)	75
第15図 溝跡・柱穴(6)	29	第33図 柱穴配置図(3)	76
第16図 溝跡・柱穴(7)	30	第34図 出土遺物(1)	82
第17図 溝跡・柱穴(8)	31	第35図 出土遺物(2)	83
第18図 溝跡・柱穴(9)	32		

## 表目次

第1表 周辺の遺跡	6	第5表 出土遺物一覧	38
第2表 基準点・区画割付杭一覧	8	<倉沢3区II>	
<倉沢3区I>		第6表 柱穴一覧	77
第3表 柱穴一覧	33	第7表 出土遺物一覧	84
第4表 墓壇一覧	36		

## 写真図版目次

写真図版1 倉沢3区I・II遺跡全景	43	写真図版13 出土遺物	55
<倉沢3区I>		<倉沢3区II>	
写真図版2 調査区全景・作業風景	44	写真図版14 調査区全景・作業風景	89
写真図版3 1号竪穴住居跡	45	写真図版15 土坑(1)	90
写真図版4 土坑・溝跡(1)	46	写真図版16 土坑(2)	91
写真図版5 溝跡(2)	47	写真図版17 土坑(3)・陥し穴状遺構	92
写真図版6 溝跡(3)	48	写真図版18 カマド状遺構(1)	93
写真図版7 溝跡(4)	49	写真図版19 カマド状遺構(2)・溝跡・掘立柱建物跡	94
写真図版8 溝跡(5)	50		
写真図版9 溝跡(6)	51	写真図版20 2号掘立柱建物跡	95
写真図版10 溝跡(7)・柱穴列	52	写真図版21 湿地	96
写真図版11 柱穴群	53	写真図版22 出土遺物(1)	97
写真図版12 墓壇群・調査区全景	54	写真図版23 出土遺物(2)	98

## I 調査に至る経過

「倉沢3区Ⅰ遺跡」、「倉沢3区Ⅱ遺跡」は、東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）の施工に伴って、その事業区域内に存することから発掘調査を実施することになったものである。

東北横断自動車道釜石秋田線は、釜石市を起点として、遠野市、奥州市を經由し、花巻市にて東北縦貫自動車道（東北道）に合流し、さらに北上市にて分岐し、西和賀町、横手市、大仙市を經由して秋田市に至る総延長約212km（内岩手県内113kmで供用区間は45km）の高規格道路である。

本路線は、釜石港、大船渡港といった重要港湾や観光資源豊富な陸中海岸国立公園を有する三陸地方拠点都市地域と、先端技術産業の集積が著しい北上中部地方拠点都市地域、花巻空港等の岩手県内と秋田県を結び、周辺地域のみならず、岩手・秋田両県全域の産業・経済発展を担うことを目的に遠野～東和間については平成10年度に遠野～宮守間で整備計画、宮守～東和間では施工命令。また、平成16年度には新直轄方式による整備が決定している。

「倉沢3区Ⅰ遺跡」、「倉沢3区Ⅱ遺跡」については、当路線事業地内に在する埋蔵文化財包蔵地であり、過年度において、岩手県教育委員会が分布調査を実施し確認されたものである。「倉沢3区Ⅰ遺跡」、「倉沢3区Ⅱ遺跡」については平成18年度に試掘調査を実施している。その結果に基づいて岩手県教育委員会と国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所と協議を行い、発掘調査を財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることとした。

これにより、平成19年4月2日付けで岩手河川国道事務所長と岩手県文化振興事業団理事長との間で受託契約を締結し、「倉沢3区Ⅰ遺跡」、「倉沢3区Ⅱ遺跡」の発掘調査に着手した。

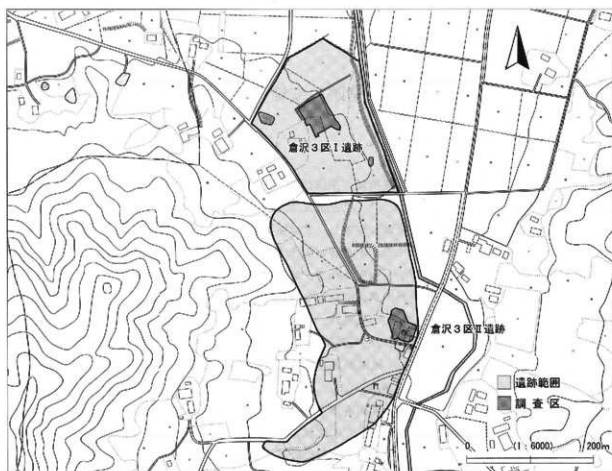
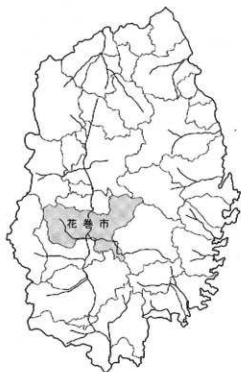
（国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所）

## II 遺跡の立地と環境

### 1 遺跡の位置と地理的環境

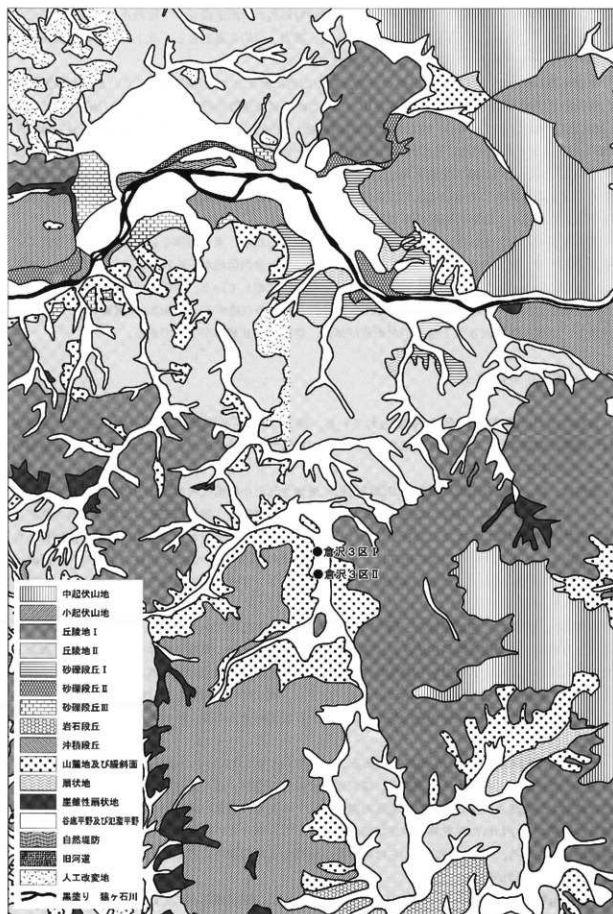
倉沢3区Ⅰ・Ⅱ遺跡が所在する花巻市は、平成18年1月1日に花巻市、大迫町、石鳥谷町、東和町の1市3町が合併して、新「花巻市」として発足した。人口は105,026人、面積は908.32km<sup>2</sup>である。花巻市は岩手県内陸部中央のやや南西に位置し、北は盛岡市、柴波町、雫石町、東は遠野市、南は北上市、奥州市、西は西和賀町と接する。本遺跡が所在する東和町は、花巻市内では東側に位置する。遺跡は、JR東日本釜石線晴山駅から南約4kmで、倉沢3区Ⅰ遺跡は岩手県花巻市東和町倉沢3区89ほか、倉沢3区Ⅱ遺跡は岩手県花巻市東和町倉沢3区175ほか位置する。

岩手県の北上盆地を南流する北上川の流域は、盛岡以北を上流域、盛岡～前沢間を中流域、前沢以南を下流域と、大きく3区域に区分され、花巻市は北上川中流域のちょうど中央付近にあたる。中流域の北上川を挟んで西側と東側では、地形が異なり対照的となる。西側は松倉山、円盛山等の標高200～900m級の奥羽山系の支脈をなす山地からなる。新第三紀中新世のグリーンタフ活動による安山岩～流紋岩質岩を主体とし、砂岩、礫岩、頁岩を伴うこの山地からは、豊沢川、瀬川などの北上川支流が東流し洪水堆積物と、流路の変遷を起因とする扇状地が形成されている。またその東側では北上川の旧河床が段丘化した河岸段丘が発達している。河岸段丘は上・中・下の新旧3段以上に分類される。



第1図 遺跡位置図





第2図 周辺の地形分類図

上位段丘は村崎野北側の西根段丘、中段段丘は村崎野周辺の村崎野段丘、下位段丘は金ヶ崎段丘である。東側は、古生層、花崗岩類、蛇紋岩、安山岩、砂岩、頁岩を基岩とし、北上山地の山麓縁辺部と標高150～250m前後の丘陵が、入り組んで発達している。

花巻市東和町は、周田を北上山地の支脈丘陵や山地に囲まれた盆地状になっている。北は鷹巣山(435.0m)、三郡塚山(588.0m)、権現堂山(476.3m)、東は遠野市境に砥森山(670.1m)、黒日影山(446.1m)、飛竜山(598.8m)、南は北上市境に物見山(268m)、奥州市境に明神山(623.1m)、金成山(540.8m)などの山が周囲にそびえる。西側には花巻市街地との間に高松丘陵地がある。北上川支流の猿ヶ石川が、この盆地の北側を大きく蛇行しながら毒沢川、子通川を集めて西流している。これらの河川が台地を開析して館迫地区、安依地区、成島地区付近で小規模な河岸段丘、谷底平野と沖積地を形成しているが、段丘の発達は不良であり範囲は狭い。

本遺跡がある倉沢地区周辺は、西側を麓山山地、物見山丘陵、東～南側を金成山丘陵に囲まれている。毒沢川と支流の小河川によって形成された河岸段丘と倉沢低地がみられる。倉沢3区Ⅰ・Ⅱ遺跡は、麓山山地から脚状に張り出した丘陵裾野の緩斜面に立地している。倉沢3区Ⅱ遺跡の北側で確認された湿地を挟んで、北へ約100mの位置に倉沢3区Ⅰ遺跡が立地する。標高は、両遺跡とも175～176m前後で、調査前は倉沢3区Ⅰ遺跡が水田及び畑地、倉沢3区Ⅱ遺跡が宅地である。

## 2 歴史的環境

東和町内では295箇所以上の遺跡が確認されている。縄文時代と平安時代の遺跡がほとんどで、奈良時代の遺跡は確認されていない。東和町内で本調査が行われた遺跡は少なく、当センターによる発掘調査は今回が初めてである。

遺跡は、猿ヶ石川の流域や毒沢川の流域付近に形成された小規模な河岸段丘や谷底平野に多く分布する。本遺跡周辺では、周田の山地から張り出した丘陵の緩斜面、毒沢川やその支流の開析された、狭い帯状の谷底平野や段丘上に分布が見られる。特に、西の麓山丘陵と東の金成山丘陵に挟まれた倉沢低地に多い。縄文時代や中世の遺跡は、丘陵や段丘等の比較的高い面にみられ、平安時代の遺跡は谷底平野等の低い面にみられる。本報告では、倉沢3区Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺の縄文時代～中世の主要遺跡を中心に概観する。

縄文時代の遺跡は、館迫地区に、縄文時代中期～晩期の集落跡である甚五郎遺跡がある。多数の貯蔵穴と複式を持つ住居跡が検出され、縄文時代中～晩期の土器、亀形土製品や、特殊注口土器などが出土している。砂丁地区にある縄文時代晩期の滝大神Ⅰ遺跡、滝大神Ⅱ遺跡は、縄文時代晩期の上器のほか、東和町で初となる弥生時代の土器が出土し、縄文時代晩期からの連続性が考えられる遺跡である。本遺跡の南側と東側の倉沢低地に而した、丘陵緩斜面上に縄文時代の遺跡の分布が多くみられる。

平安時代の遺跡は、試掘や分布調査であるが、倉沢地区では倉沢5区Ⅱ遺跡、倉沢10区Ⅰ・Ⅱ遺跡、白間Ⅰ・Ⅱ遺跡、穴明中Ⅰ・Ⅲ遺跡が、毒沢地区では前畑遺跡、江戸尻遺跡があり、クロロ使用土師器片の出土が確認されている。浮山地区の縄文時代と平安時代集落跡の高野畑遺跡は、カマドの作り替えが3回おこなわれた平安時代の住居跡が見つかっている。この住居跡からはクロロビットと粘土が検出されている。大形の柱穴跡からは内外黒色処理の土師器高環の底部に、「上」の崩し字で「ユ」刻字された土器が出土している。

中世の遺跡は、城館跡がほとんどで、丘陵地や段丘上に19箇所確認されている。田瀬地区の城館跡



第3図 周辺の遺跡

を除いて、他は和賀氏の家臣が築城したことが文献などから判明している。本遺跡の西側の丘陵上には安俣小原氏の會沢城跡がある。堀跡、土橋が残る甲郭の山城跡である。物見山丘陵上には、毒沢氏が築城した毒沢城跡があり、掘立柱建物跡や多数の柱穴跡が見つまっている。

第1表 周辺の遺跡(1)

No.	遺跡コード	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物
1	ME59-0087	山の神Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器
2	ME59-0160	山の神Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
3	ME59-0076	倉沢5区Ⅱ	散布地	縄文・平安	縄文土器、ロクロ使用土師器
4	ME59-0048	倉沢10区Ⅱ	散布地	縄文・平安	縄文土器(晩期)、ロクロ使用土師器
5	ME59-0055	倉沢5区Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器
6	ME59-0081	穴明Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器
7	ME59-0061	穴明Ⅲ	散布地	平安	ロクロ使用土師器
8	ME58-0397	穴明Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(中・後期)
9	ME59-0050	穴明Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
10	ME58-0374	穴明Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器(後期)
11	ME58-0381	赤部Ⅱ	散布地	縄文・平安	縄文土器、ロクロ使用土師器
12	ME59-0074	穴明Ⅰ	散布地	平安	ロクロ使用土師器
13	ME58-0347	口向山Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器
14	ME59-0026	倉沢10区Ⅰ	散布地	縄文・平安	縄文土器・ロクロ使用土師器
15	ME49-2097	白岡Ⅱ	散布地	縄文・平安	ロクロ使用土師器
16	ME49-2077	白岡Ⅰ	散布地	縄文・平安	縄文土器、ロクロ使用土師器
17	ME59-2082	倉沢番所跡	番所跡	近世	
18	ME49-2063	八合田Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
19	ME49-2057	八合田Ⅲ	散布地	平安	ロクロ使用土師器
20	ME49-2044	八合田Ⅰ	散布地	縄文・平安	縄文土器、ロクロ使用土師器
21	ME49-2021	倉沢3区Ⅰ	散布地	平安	ロクロ使用土師器
22	ME49-2041	倉沢3区Ⅱ	散布地	平安	ロクロ使用土師器
23	ME58-0305	倉沢城跡	散布地・城跡	縄文・中世・近世	縄文土器、石楯、石橋、郭、土橋
24	ME58-0163	浮田番所	番所跡	近世	
25	ME58-0179	駒籠	散布地	縄文	縄文土器(中期)、石楯、石斧、焼土、伊勢
26	ME58-0156	丹後屋敷	散布地	縄文	縄文土器(中期)、石楯
27	ME58-0125	高野畑	集落跡	縄文・平安	縄文土器(中期)、石楯、住居跡、ロクロビット、平ガマ跡、掘立柱建物跡、刺子土器「ユ」、ロクロ使用土師器、須恵器
28	ME58-0114	車籠	城跡	中世	空堀、土塁、郭
29	ME48-2294	御蔵	散布地	平安	ロクロ使用土師器
30	ME48-2301	太田	散布地	縄文	縄文土器(中期)
31	ME48-1384	白岩神社西	散布地	縄文・平安	縄文土器、ロクロ使用土師器
32	ME48-1385	白岩神社東	散布地	縄文	縄文土器
33	ME49-2009	中屋	散布地	縄文・平安	縄文土器(中期)、ロクロ使用土師器
34	ME49-1084	洞Ⅱ	散布地	平安	ロクロ使用土師器
35	ME49-1085	洞Ⅲ	散布地	平安	ロクロ使用土師器
36	ME49-1086	洞Ⅳ	散布地	平安	ロクロ使用土師器
37	ME49-1150	洞Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器(後期)
38	ME49-1078	狐沢Ⅱ	散布地	縄文・平安	縄文土器、ロクロ使用土師器
39	ME49-1160	狐沢Ⅰ	散布地	縄文・平安	縄文土器(後期)、ロクロ使用土師器
40	ME49-1049	天ヶ沢	散布地	縄文・弥生	縄文土器(中期)、弥生土器、石楯
41	ME49-1028	滝大神Ⅰ	散布地	縄文・弥生	縄文土器(晩期)、弥生土器、土俵、住居跡
42	ME49-1120	滝大神Ⅱ	散布地	縄文・平安	縄文土器、ロクロ使用土師器
43	ME49-0191	大沢向Ⅰ	散布地	平安	ロクロ使用土師器

第1表 周辺の遺跡(2)

No.	遺跡コード	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物
44	ME48-1356	道地II	散布地	不明	
45	ME48-1337	酒地I	散布地	不明	
46	MF48-1314	桜沢II	散布地	縄文・平安	縄文土器、ロクロ使用土師器
47	ME48-1316	桜沢I	散布地	縄文・平安	縄文土器、ロクロ使用土師器
48	ME48-0386	宿館	城館跡	中世	
49	MF48-0391	江戸尻	散布地	平安	ロクロ使用土師器
50	ME48-1227	前畑	散布地	平安	ロクロ使用土師器
51	ME48-0276	毒沢館	城館跡	中世	空堀、郭、陶磁器、古銭、専六住居跡(中期)
52	MF48-1104	下田	散布地	平安	ロクロ使用土師器
53	ME48-0185	下中内	散布地	縄文	縄文土器、石器
54	MF48-0331	小峯	散布地	縄文	縄文土器
55	MF48-0333	長森	散布地	縄文	縄文土器(中期)
56	ME49-0014	三農I	散布地	平安	ロクロ使用土師器
57	MF48-0204	外山	散布地	縄文	縄文土器
58	ME38-2149	小通中田	散布地	縄文	縄文土器
59	MF38-2117	小通高塚敷	散布地	縄文	縄文土器
60	ME38-1195	成島館	城館跡	中世	空堀
61	ME38-2205	芦井橋	散布地	縄文	縄文土器(晩期)
62	MF38-1143	矢崎	散布地	縄文・平安	縄文土器(晩期)、ロクロ使用土師器
63	ME38-1145	矢崎橋下	散布地	平安	ロクロ使用土師器
64	MF38-1157	黄金山	散布地	平安	ロクロ使用土師器
65	MF38-1210	落合熊野神社	散布地	縄文	縄文土器
66	ME38-0293	落合2区I	散布地	縄文・平安	縄文土器、ロクロ使用土師器
67	MF38-1200	落合2区II	散布地	縄文・平安	縄文土器、ロクロ使用土師器
68	ME38-1276	土師	散布地	縄文	縄文土器
69	MF39-1001	徳島	散布地	縄文・平安	縄文土器、ロクロ使用土師器
70	MF39-1012	西田I	散布地	平安	ロクロ使用土師器
71	ME39-1024	西田II	散布地	縄文	縄文土器(中期)
72	MF39-1021	立石神社脇	散布地	平安	ロクロ使用土師器
73	ME39-1031	立石神社東	散布地	平安	ロクロ使用土師器
74	MF38-1348	鹿野	散布地	縄文	縄文土器
75	ME38-1356	新山I	散布地	平安	ロクロ使用土師器
76	ME38-1367	新山II	散布地	平安	ロクロ使用土師器
77	MF38-1375	新山III	散布地	縄文	縄文土器
78	ME39-1034	西田II	散布地	平安	ロクロ使用土師器
79	MF39-1074	地盛	散布地	縄文・平安	縄文土器(中・後期)、ロクロ使用土師器
80	ME39-1094	館廻I	散布地	縄文	縄文土器(中・後期)、磨石
81	ME39-1085	館廻II	散布地	縄文・平安	縄文土器(中期)、ロクロ使用土師器
82	ME39-1087	芦沢I	散布地	縄文	縄文土器
83	ME39-2012	共玉館	集落跡	縄文	縄文土器(前・中・晩期)、石器、住居跡、貯蔵穴跡、斧状土製品、特殊注口土器、壺型
84	ME39-2007	芦沢II	散布地	縄文	縄文土器
85	MF39-2029	館追	散布地	縄文	縄文土器
86	ME39-2017	塚端	散布地	縄文	縄文土器

### Ⅲ 野外調査と室内整理の方法

#### 1 野外調査

##### (1) 調査面積

倉沢3区Ⅰ遺跡2,523㎡、倉沢3区Ⅱ遺跡2,212㎡を調査対象とした。

##### (2) グリッドの設定 (第4図)

グリッドの設定については、平面直角座標第X系(世界測地系)を用いて基準点4点、補点6点を打設した(第2表)。これを基本として一辺100×100mの大グリッドを組み、西から東へローマ数字のⅠ・Ⅱ……南から北へアルファベット大文字のA・B・C……として「ⅠA」「ⅡB」と表した。小グリッドは、西から東へ算用数字の1～20、南から北へアルファベット小文字のa～tとして、「ⅠA1b」「ⅡB2c」と大グリッドと組み合わせて表現した。

第2表 基準点・区画割付杭一覧

	世界測地系		H (m)	グリッド
	X	Y		
基1	-74280.000	36080.000	176.461	ⅡA7c
基2	-74260.000	36080.000	176.068	ⅡA7i
基3	-73905.000	35960.000	176.449	ⅠE3t
基4	-73905.000	35990.000	175.104	ⅠF9t
補1	-74280.000	36105.000	175.372	ⅡA12e
補2	-73935.000	35990.000	176.604	ⅠD9n
補3	-73935.000	36005.000	175.887	ⅠD12n
補4	-73935.000	36011.000	175.561	—
補5	-73943.000	36005.000	175.777	—
補6	-73943.000	36011.000	175.589	—

##### (3) 粗掘り・遺構検出

調査区内に任意の試掘トレンチを設定し人力掘削を行い、土層の堆積状況と遺構検出をを観察した。その後遺構確認面まで重機で掘り下げ、鋤簾・両刃ガマ等で遺構検出作業を行った。

##### (4) 遺構名のつけ方

###### ① 野外調査

住居跡は「SI-01」、土坑は「SK-01」、溝は「SD-01」など、遺構種類ごとに略号を用いて、仮名称をつけた。

###### ② 報告書掲載

野外調査時および室内整理時には、検出時に命名した仮名称を変更することなく、報告書掲載時に新たに掲載名称をつけた。

### (5) 遺構精査・遺物の取り上げ

精査は、遺構の規模に応じて2分法・4分法を用いて断面を残し埋土の堆積状況を記録した。遺構内遺物の大半は層別で取り上げず、上部・下部・埋土一括と区分した。遺構外の遺物は出上した小グリッド、層序を記録した。

### (6) 実 測

遺構の実測は平面図及び断面図の作成を行った。平面実測は、1m方眼を基準にした簡易遺り方測量を主に採用し、遺構配置図・溝跡などについては光波トランシットによる実測も併用した。縮尺は1/20を基本としたが、堅穴住居跡のカマド等では1/10を用いる等、必要に応じて任意の縮尺で実測した。土層注記は層中混入物の量の表現が統一されていないが、おおむね極微量1%以下、微量1～5%、少量5～10%、やや多量10～30%、多量30～50%、大量50%程度としている。

### (7) 写 真 撮 影

写真撮影は、メインカメラとして中判カメラ（モノクロ）、サブカメラとして35mm判カメラ（モノクロ・リバーサル）、メモ用にデジタルカメラを使用した。これらのカメラでは、各遺構の全景・断面・遺物出土状況を中心に撮影を行い、遺跡全体は小型飛行機により空中からの俯瞰写真を撮影した。

## 2 室内整理

### (1) 遺物の処理

土器・陶磁器は、器形復元可能なもの、口縁・底部が残存するもの、文様が確認できるもの（縄文）を中心に選別した。石器は製品を、土製品・石製品・金属製品（釘を除く）は全点登録した。

遺物は登録時に土器・石器など、遺物の種類ごとに仮番号を付した。室内整理中は仮番号のまま作業を行った。その後編集段階で全ての遺物に改めて掲載順の番号を付し、これを掲載番号とした。

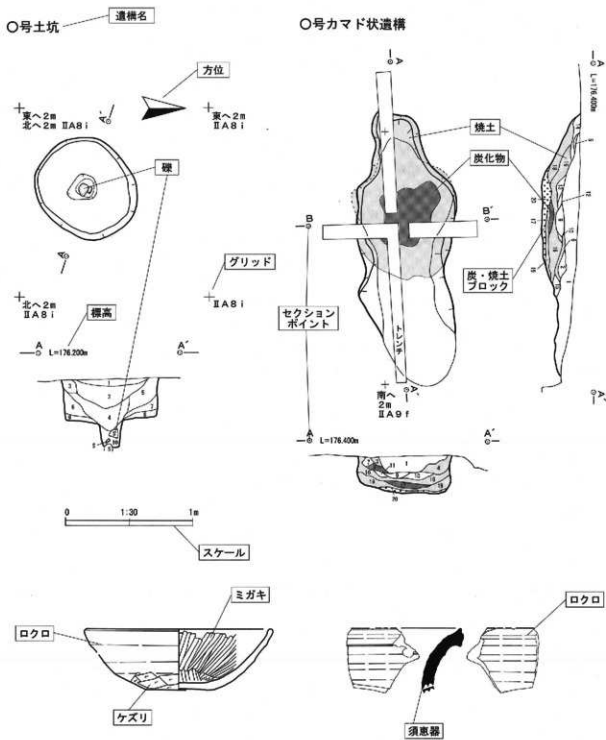
### (2) 遺構の処理

遺構の実測図は整理及び点検を行った後に、必要に応じて図面を合成し第二原図を作成し、これをもとにトレースを進めた。

### (3) 図版の処理

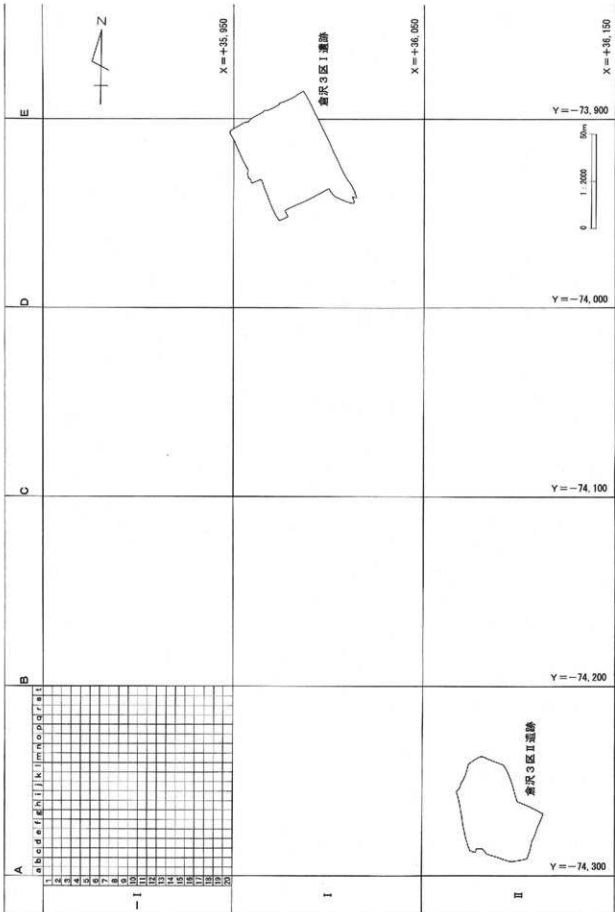
遺構ごとに平面・断面図を作成し掲載した。遺構図版には縮尺率を表すスケールと方位を付した。遺物の縮尺は、土器1/3、土製品・石製品・キセル1/2、剥片石器2/3、銭貨1/1とした。

なお遺物写真図版の掲載番号は遺物図版と統一している。



第4図 凡例





第5図 グリッド設定図

## IV 倉沢3区I遺跡の調査

### 1 遺跡の立地と基本層序

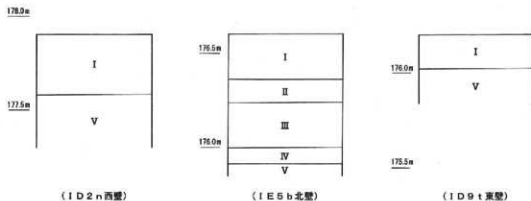
#### (1) 遺跡の立地

遺跡は低位段丘上、緩やかな東斜面に立地する。標高は176m前後である。現況は水田及び畑地で、傾斜に沿って階段状に整地されている。このうち高速道路予定地となったのは、遺跡の東部、南北250×東西45m程の範囲である。この範囲を生涯学習文化課で試掘を行なった結果、遺構が検出された範囲が今回の調査対象となった。調査区は南北60×東西45m程度の範囲、面積は2,523㎡である。

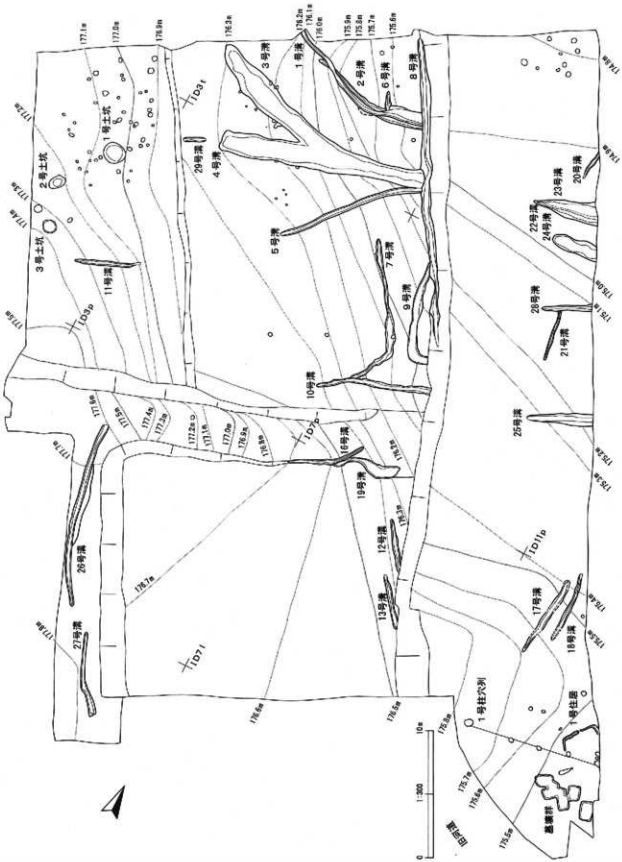
#### (2) 基本層序

現況の水田及び畑地により3段に整地されている。各段の斜面上方ほど削平がひどく、調査区の大半分がⅠ～Ⅲ層によりⅤ層まで削られている。Ⅳ層は上段北～中央、中段北の斜面下半（東側）にのみ残存する。調査区中央の畔部分は階段状の整地を受けていないため、本来の傾斜が比較的残っているようで、全体に旧表土（Ⅳ層）が確認できた。この畦の地山面（Ⅳ層下面）と、その他の場所では高低差が20cm程度あり、ここからも整地面がかなり削平されていることが推測できる。またⅣ層自体、古代の遺物を包含するため、古代の以前の旧表土は残存しないものと思われる。

- I 10YR 4/3 にぶい黄褐色 シルト しまり、粘性ややあり。上段～中段現水田耕作土。
- I' 10YR 2/2 黒褐色 砂質シルト しまり、粘性中。地山ブロック極微量 下段現畑耕作土。
- II 10YR 4/2 灰黄褐色シルト しまり、粘性ややあり。旧水田土。
- III 10YR 4/3 にぶい黄褐色シルト しまり、粘性ややあり。グライ化している所はI層よりグレー味あり。
- IV 10YR 2/2 黒褐色シルト しまり、粘性ややあり。旧表土。Ⅴ層との境漸位的。地山粒微量含む。上段には厚く残る。土師器・須恵器を包含する。
- V 10YR 5/6 黄褐色 粘土質シルト グライ化する所もあり。



第6図 基本土層図



第7図 調査区全体図

## 2 検出遺構と出土遺物

## (1) 竪穴住居跡

## 1号竪穴住居跡 (第8図、写真図版3)

〈位置・検出状況・重複〉ID13mグリッド付近に位置する。南側に近世以降の築地があり改葬時に掘り下げを行っており、本遺構付近も擾乱を受けていた。そのため、検出時には不整構円形暗褐色土の広がり(住居煙道部)と土師器の坏のみを確認し、上坑と判断して調査を開始した。この上坑を半截し断面を観察したところ、住居煙道部の堆積状況に類似していたため、周囲を再度検出した結果、この土坑の北側に周溝を確認し、住居跡と判断した。1号櫛列と重複し、出土遺物より本遺構のほうが古いと判断される。

〈規模・形状〉煙道部・及び北側周溝しか残存しておらず全形は不明であるが、方形と思われる。残存部する規模は3.1×2.5m、主軸方位はN-145°-Wである。

〈堆積状況〉埋土は、北東隅にわずかに残るのみである。10YR 2/2 黒褐色シルトを主体とし、地山ブロックが微量混入する。カマド煙道底面にも同一主体土が堆積しているが、調査区内基本層序内には確認できないものである。

〈床面・壁〉床面は埋土を確認できた北東隅に若干残るがそれ以外は残存していない。壁も同様に北東側のみで、外傾して立ち上がる。

〈上坑・柱穴〉住居範囲内に5個の柱穴を確認した。このうちP79・86は1号櫛列に帰属する。これ以外、P67・87・88も住居外にある柱穴と主体土が類似しているため、本遺構に伴うかはっきりしない。

〈カマド〉煙道部のみ確認された。燃焼部及び袖は削平され、焼土の痕跡残っていない。煙道部の残存する長さは1.19mである。西壁に設置されている。北壁までの距離は約2.5mで、北壁の長さを基準として住居の全形を正方形と仮定すると、やや南よりに位置する。煙道部は10度程度の傾斜をもち、煙出し部は直径35cm、残存する深さは15cmで、壁は直立する。煙道内には、底面に住居埋土と同じ黒褐色土、その後焼土ブロックと炭化物を含む暗褐色土が堆積する。覆土中には地山ブロック層が挟まり、天井崩落土と考えられる。また、1層中に含まれる土師器坏内にも地山土が入っており、これも天井崩落土の可能性もある。埋土の堆積状況から、カマド煙道の構築方法は割り貫き式と推定される。

〈遺物〉煙道部より、土師器坏が一点出土したのみである。坏は煙道部埋土1層中に正位で出土した。上述のとおり、擾乱がひどく重機で掘り下げていたところ遺物を発見したため、これにより上部を欠損してしまった可能性がある(土器1:第19図、写真図版13)。

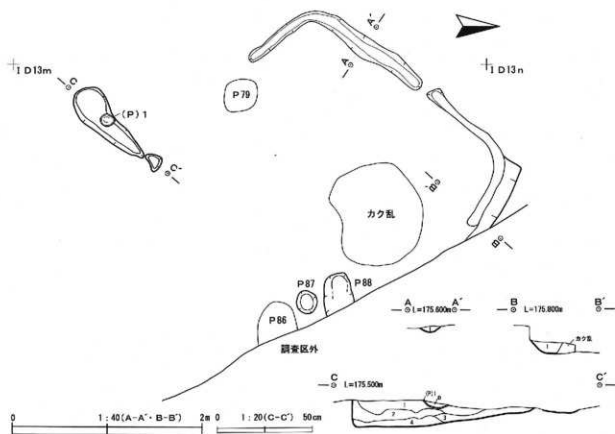
## (2) 土 坑

## 1号土坑 (第9図、写真図版4)

〈位置・検出状況・重複〉ID2rグリッドに位置する。地山面で黒褐色土の円形プランを確認した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉1.72×1.58mの円形である。坑から底面にかけて摺鉢状に緩やかに径を狭めていき底面は丸みを帯び、0.62×0.47mとなる。検出面からの深さは68cmである。

〈堆積状況〉黒色～黒褐色土を主体とする。2層以下は地山上をやや細長いブロック状に含んでおり、壁の崩落を伴いながら周囲から自然に堆積したものと考えられる。一方で1層は底面に礫が入り、埋土にも小礫・焼土ブロック・炭化物・遺物含むことから、人為堆積の可能性もある。



## 1号住居跡 (A-A')

1 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり、粘性中。地山ブロック (2~3cm) を縦状に全体にやや多く含む。

## 1号住居跡 (B-B')

1 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり、粘性中。地山ブロック極微量。

## 1号住居跡 (C-C')

- 0 10YR7/4 に近い黄褐色土 粘土質シルト 地山土。下部に1層に似る土が入る。  
 1 10YR3/3 暗褐色 シルト しまり、粘性中。焼土ブロック・炭少量含む。底面に多い。  
 2 地山ブロック層 10YR2/2黒褐色シルトブロック極微量。  
 3 1層に似るが、焼土ブロック・炭少ない。  
 4 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり、粘性中。地山ブロックやや多い。

第8図 1号壑穴住居跡

〈遺物〉1層中より土師器・須恵器片が出土している。総量は101.1g、このうち土師器坏と須恵器人甕片を図化した。また剥片も出土している。(土器2・3、剥片41:第19図、写真図版13)

## 2号土坑(第9図、写真図版4)

〈位置・検出状況・重複〉ID2qグリッド付近に位置する。地山面で黒褐色土の楕円形プランを確認した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉1.39×0.93mの楕円形である。底面はおおむね平直で0.63×0.45m、壁は外傾して立ち上がるが、一部オーバーハングする。検出面からの深さは83cmである。

〈堆積状況〉黒褐色土を上体とする。他の遺構と比較して、非常にしまり、粘性も強い。底面から、地山ブロックを多く含むグレー味の強い層、黒味の強い層、基本層序IV層に似る主体土を持つ層の順に堆積する。自然堆積と考えられる。

〈遺物〉出土していない。

## 3号土坑(第9図、写真図版4)

〈位置・検出状況・重複〉ID1qグリッド付近に位置する。地山面で黒褐色土の円形プランを確認した。重複する遺構はない。

〈規模・形状・堆積状況〉開口部径1.03×1.01m、底部径も0.93×0.89mと円形である。土坑内からは板材が出土している。寝かせて並べられた材の周囲を、直立した材で囲っていることから桶枠と考えられる。掘り方底面は凹みがあり、これを均し(3層)、桶を設置したようである。枠の周囲及び板材と3層との隙間には黒褐色土が堆積しており、桶を埋めた状態で使用したものと考えられる。

〈遺物〉出土していない。

### (3) 溝 跡

#### 1号溝跡(第12・14図、写真図版4)

〈位置・検出状況・重複〉IE4a～6aグリッド付近に位置する。地山面で確認した。重複する2号溝跡よりも新しく、6・8号溝跡よりも古い。

〈規模・形状〉東西方向、やや北側に傾き弧を描きながら蛇行する。西側は調査区外へ延び、東側は8号溝跡との重複部で途切れる。全長は12.3m。上幅は蛇行する範囲の外側が広くなり0.30～1.05m、底幅は0.10～0.25m、断面形は浅皿状となる。検出面からの深さは5～10cm程度である。

〈埋土〉黒褐色粘上質シルトを主体とする。地山ブロックを混入し、壁際(2層)は量が多く、粒径も大きくなる。

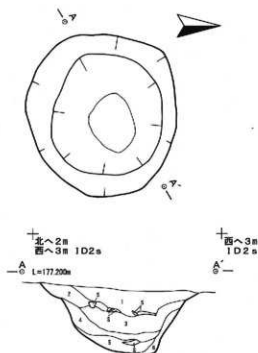
〈遺物〉2号溝跡との一括で土師器・須恵器が24.6g、土製品が出土した。土器は小片のため図化していない。(土製品18:第19図、写真図版13)

#### 2号溝跡(第12・14図、写真図版4)

〈位置・検出状況・重複〉IE4a～6aグリッド付近に位置する。地山面で検出した。重複する1・8号溝跡よりも古い。

〈規模・形状〉1号溝跡に沿うように、東西方向に蛇行する。西側は深さを減じ、東側は8号溝跡との重複部で途切れる。全長は10.0m。上幅は0.30～0.48m、底幅は0.15～0.30m、片方の側面を1号溝跡に切られるが断面形は浅皿状と推定される。検出面からの深さは、10cm程度である。

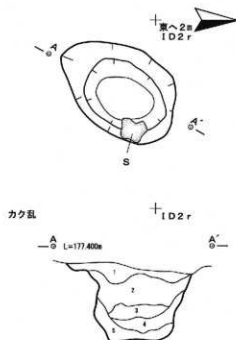
## 1号土坑



## 1号土坑 (A-A')

- 1 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト しまりややあり、粘性あり。地山ブロック微量。炭(径~2cm)、焼土ブロック微量含む。礫多く含む。
- 2 10YR2/2 黒褐色 しまりあり、粘性ややあり。地山ブロック少量含む。
- 3 10YR2/1 黒色 粘土質シルト しまりややあり、粘性強い。10YR2/2黒褐色土を微量含む。
- 4 10YR2/2 黒褐色 粘土 しまり、粘性強い。地山ブロック微量。細長く入る。
- 5 10YR2/1 黒色 粘土 しまり、粘性強い。地山ブロックが少量塊状に入る。10YR2/2黒褐色粘土質シルトを全体に含む。
- 6 10YR2/1 黒色 粘土質シルト しまり、粘性あり。地山ブロック大きく(径~5cm)(やや細長い)塊状にやや多い。

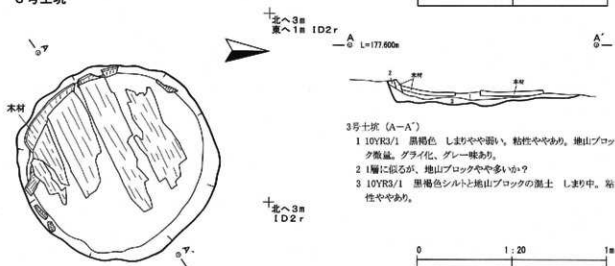
## 2号土坑



## 2号土坑 (A-A')

- 1 10YR2/2 黒褐色 粘土 しまり、粘性非常にあり。基本層序IV層に似る。
- 2 10YR2/2 黒褐色 粘土 しまり、粘性非常にあり。地山ブロック少量。
- 3 10YR2/2 黒褐色 粘土 しまり、粘性非常にあり。最も黒味強い層。地山ブロック微量。
- 4 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト しまり、粘性非常にあり。グレー味強い。地山ブロック大きく塊状に入る。
- 5 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト しまり、粘性非常にあり。地山ブロックやや多く塊状に入る。

## 3号土坑



## 3号土坑 (A-A')

- 1 10YR3/1 黒褐色 しまりやや弱い、粘性ややあり。地山ブロック微量。グライ化、グレー味あり。
- 2 I層に似るが、地山ブロックやや多いか?
- 3 10YR3/1 黒褐色シルトと地山ブロックの混土 しまり中。粘性ややあり。

〈埋土〉1号溝跡の埋土より茶味が強い黒褐色粘土質シルトを主体とする。

〈遺物〉1号溝跡との一括で土師器・須恵器、土製品が出土している。

### 3号溝跡（第12・14図、写真図版5）

〈位置・検出状況・重複〉IE4a～6aグリッドに位置する。地山面で検出した。東端が4号溝跡にぶつかるが、本遺構のほうが古いかもしれないもしくは同時に機能していたものと思われる。

〈規模・形状〉東西方向、やや北西・南東方向へ傾き直線状に延びる。1・2号溝跡に平行する角度をもつ。西側はA-A'断面の西側で急に浅くなり消失し、東側は上述の通り4号溝跡と重複する。全長は約12mを測る。上幅は1.30～2.1m、底幅は0.5～1.55m、断面形は浅皿状となる。検出面からの深さは30cm程度である。

〈埋土〉黒褐色土を主体とする。下部はしまりのある粘上質な層、上部は地山がブロックで入り、やや砂質な層が堆積する。壁際の層にも1層同様地山ブロックが混入する。

〈遺物〉土師器が7.3g出土したが小破片のため図化していない。その他剥片(42・43)も出土している。

### 4号溝跡（第12・14図、写真図版5）

〈位置・検出状況・重複〉IE3s～IE6tグリッドに位置する。地山面で確認した。3号溝跡とY字状に重なり、埋土の堆積状況から本遺構が新しいか、同時期と判断される。その他5号溝跡との新旧関係は不明、8号溝跡よりは古い。

〈規模・形状〉東西方向、直線状に延びる。西側はA-A'断面より西側で急に浅くなり消失し、東側は8号溝跡重複部で途切れ、全長は16.4mを測る。上端は2.1～1.3m、下端は1.55～0.5m、断面形は浅皿状となる。検出面からの深さは35cm程度である。

〈埋土〉黒褐色土を主体とする。底面から砂と粘土の層が2～3枚重なり、上部と壁際は地山ブロックが混入する層となる。3号溝跡と主体土及び堆積状況が非常に類似しており、両遺構の重複部で埋土を観察したものの、明確な切りあい関係・遺構の立ち上がりを確認できなかった。A-A'の断面から把握できることは、4号溝跡1層の範囲が3号溝跡のプラン内にはいることで、このことから本遺構のほうが新しい、もしくは同時に機能していたものと考えられる。前者の場合、同断面の4・6層は3号溝跡の埋土の可能性がある。

〈遺物〉土師器・須恵器が北側で75.1g、3号溝跡との重複部より南側で35.4g出土している。このうち須恵器大甕胴部片1点を図化した。(土器4・土製品19：第19図、写真図版13)

### 5号溝跡（第12・14図、写真図版6）

〈位置・検出状況・重複〉ID5r～IE6tグリッドに位置する。地山面で検出した。重複する4号溝跡との新旧関係は不明、8号溝跡よりは古い。

〈規模・形状〉南西～北東方向、直線上に延びる。南西側は徐々に深さを減じ立ち上がり、北東側は8号溝跡重複部で消失する。全長は11.7m、上幅0.25～0.50m、下幅0.10～0.25m、断面形は逆台形状となる。検出面からの深さは、10cm程度である。

〈埋土〉黒褐色土を主体とする。地山ブロックを混入する上部としない下部にわかれ、間に地山ブロック層をはさむ。

〈遺物〉土師器が44.3g出土している。いずれも小破片のため図化していない。



**6号溝跡** (第12・14図、写真図版6)

〈位置・検出状況・重複〉 I E 5 a グリッドに位置する。地山面で検出された。重複する1号溝跡・2号溝跡より新しい。

〈規模・形状〉 南北方向、直線状に延びる。北側はやや浅くなって立ち上がる。南側は1号溝跡と重複するが、両遺構を同時に掘り下げてしまい、これより南側のプランを確認できなかった。全長は1.55m、上幅は最大0.45m、下幅は最大0.20m、断面形は浅皿状となる。検出面からの深さは10cm程度である。

〈埋土〉 地山ブロックを含む黒褐色土を主体とする。グライ化しており、ややグレー味を帯びる。

〈遺物〉 出土していない。

**7号溝跡** (第13図、写真図版6)

〈位置・検出状況・重複〉 I D 7 q ~ I E 6 s グリッドに位置する。地山面で検出された。重複する10号溝跡との新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉 北側は南北直線状に延び、南側は東西方向へL地状に屈曲する。北端は深さを減じ立ち上がり、南端は10号溝跡との重複部で消失する。全長は12.5m、北側9.0m、南側3.5m、上幅は0.20~0.75m、下幅は0.10~0.50mを測る。断面形は浅皿状もしくはわずかに窪む程度で、検出面からの深さは最大でも5cmほどである。

〈埋土〉 黒褐色土を主体とし、地山ブロックをわずかに混入する。

〈遺物〉 出土していない。

**8号溝跡** (第12・13・14図、写真図版6)

〈位置・検出状況・重複〉 I D 8 r ~ I E 5 b グリッドに位置する。現況の水田而中段と下段の境、斜面に沿って地山面で検出した。1・2・4・5・9号溝跡と重複し、これらすべてより新しい。

〈規模・形状〉 南北方向直線状に延び、両端は深さを減じ立ち上がる。全長は24.4m、上幅は0.20~0.70m、下幅は0.10~0.40m、断面形は逆台形状となる。検出面からの深さは、深いところで20cm程度である。

〈埋土〉 基本層序II層に類似した灰黄褐色土を主体とする。北側には上部に地山ブロック層が入る所もある。

〈遺物〉 土師器壺1点(6.6g)が出土し、これを図化した(上器5:第19図、写真図版13)。

**9号溝跡** (第13図、写真図版6)

〈位置・検出状況・重複〉 I D 8 q ~ I E 7 s グリッドに位置する。地山面で検出した。重複する8号溝跡より古い。

〈規模・形状〉 南北直線状に延び、南端が東方向へL地状に屈曲する。北側は8号溝跡重複部で、南側は現況水田の中・下段の境界でいずれも消失し、全長は8.6m(南北方向7.5、東西方向1.1m)を測る。上幅は0.40~0.90m、下幅は0.30~0.80m、断面形は浅皿状となる。検出面からの深さは、10cm程度である。

〈埋土〉 地山ブロックを含む黒褐色土を主体とする。7号溝跡の埋土と似るがやや黒味が強い。

〈遺物〉 出土していない。

#### 10号溝跡 (第13図、写真図版7)

〈位置・検出状況・重複〉ID6p～ID8qグリッド付近に位置する。地山面で検出した。7号溝跡と重複するが新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉東西方向、直線状に延びる。西端は徐々に深さを減じ立ち上がるが、東側は現況水田の中・下段の境界で消失する。全長は9.0m、上幅0.20～0.55m、下幅0.10～0.30mを測る。断面形は浅皿状で、検出面からの深さは10cm程度である。

〈埋土〉地山ブロックを混入する黒褐色土を主体とする。

〈遺物〉出土していない。

#### 11号溝跡 (第10図、写真図版7)

〈位置・検出状況・重複〉ID2p～3qグリッドに位置する。地山面で検出し、重複する遺構はない。

〈規模・形状〉東西方向、直線状に延びる。両端は深さを減じ立ち上がり、全長5.3mを測る。上幅は0.15～0.30m、下幅は0.10～0.15m、断面形は逆台形状となる。検出面からの深さは5cm程度である。

〈埋土〉グライ化してグレー味の強い、黒褐色土を主体とする。

〈遺物〉出土していない。

#### 12号溝跡 (第15図、写真図版7)

〈位置・検出状況・重複〉ID9n～9oグリッドに位置する。地山面で検出し、重複する遺構はない。

〈規模・形状〉南北方向、直線状に延びる。北端は深さを減じ立ち上がるが、南端は現況水田の中・下段の境界で消失する。全長は4.3m、上幅0.20～0.40m、下幅0.10～0.25mを測る。断面形は浅皿～逆台形状で、検出面からの深さは10cm程度である。

〈埋土〉地山ブロックを含む黒褐色土を主体とする。

〈遺物〉出土していない。

#### 13号溝跡 (第15図、写真図版7)

〈位置・検出状況・重複〉ID9nグリッドに位置する。地山面で検出した。重複する遺構はないが、北側に12号溝跡がほぼ平行して走る。

〈規模・形状〉南北方向、直線状に延びる。両端は深さを減じ立ち上がり、全長4.35mを測る。上幅は0.30～0.40m、下幅は0.10～0.30m、断面形は浅皿状となる。検出面からの深さは、5cm程度である。

〈埋土〉12号溝跡の埋土に類似するが地山ブロックの混入量が少ない。

〈遺物〉出土していない。

#### 14・15号溝跡 欠番

#### 16号溝跡 (第15図、写真図版7)

〈位置・検出状況・重複〉ID7o～ID7pグリッドに位置する。地山面で検出した。重複する19号溝跡より新しい。

〈規模・形状〉東西方向へ直線状に延び、東半がやや北へ角度を変える。7・9号溝跡と同形状のコーナー部分と考えられる。両端は深さを減じ立ち上がり、全長6.25mを測る。上幅は0.20～0.35m、下幅は0.10～0.20m、断面形はU字状となる。検出面からの深さは5cm程度である。

〈埋土〉地山ブロックを極微量含む黒色土を主体とする。

〈遺物〉出土していない。

#### 17号溝跡（第18図、写真図版8）

〈位置・検出状況・重複〉ID11n～11oグリッドに位置する。地山面で検出し、重複する遺構はない。

〈規模・形状〉南北方向、直線状に延びる。両端は立ち上がり、全長は5.8mを測る。上幅は0.50m、下幅は0.30m、検出面からの深さは5cm程度である。断面形はU字状となる。

〈埋土〉地山ブロックを微量含む黒褐色土を主体とする。

〈遺物〉土師器が1.8g出土しているが、小破片のため図化していない。

#### 18号溝跡（第18図、写真図版8）

〈位置・検出状況・重複〉ID12n～12pグリッドに位置する。地山面で検出し、重複する遺構はない。

〈規模・形状〉南北方向、直線状に延びる。両端は立ち上がり、全長は5.3mを測る。上幅は0.30m、下幅は0.20m、検出面からの深さは5cm程度である。断面形は浅皿状となる。

〈埋土〉地山ブロックを極微量含む暗褐色土を主体とする。

〈遺物〉出土していない。

#### 19号溝跡（第15図、写真図版8）

〈位置・検出状況・重複〉ID7o～ID8pグリッドに位置する。地山面で検出した。重複する16号溝跡に切られる。

〈規模・形状〉東西方向に蛇行して延びる。両端は深さを減じ立ち上がり、全長約5.3mを測る。上幅は0.30～1.10m、下幅は0.10～0.80m、東半の幅が広がる。断面形はU字状、検出面からの深さは5cm程度である。

〈埋土〉地山ブロックを少量含む黒褐色土を主体とする。

〈遺物〉出土していない。

#### 20号溝跡（第16図、写真図版8）

〈位置・検出状況・重複〉IE9bグリッドに位置する。地山面で検出し、重複する遺構はない。

〈規模・形状〉南北方向、直線状に延びる。北側は調査区外へ延び、南側は立ち上がる。全長2.5m、上幅0.3m、下幅0.15mを測り、断面形は浅皿状となる。検出面からの深さは5cm程度である。

〈埋土〉地山ブロック微量含む暗褐色土を主体とする。

〈遺物〉出土していない。

#### 21号溝跡（第17図、写真図版8）

〈位置・検出状況・重複〉ID9t～IE9aグリッドに位置する。地山面で検出した。重複する28号溝跡埋土中に本遺構の埋土が確認できなかったため、28号溝跡に切られる可能性があるが、遺構の深さが非常に浅く重複部北側では検出されなかったことから、新旧関係がはっきりしない。

〈規模・形状〉南北方向、直線状に延びる。南側は立ち上がり、北側は上述の通り28号溝跡との重複部で消失する。全長4.1m、上幅0.2m、下幅0.15mを測る。断面形はU字状～逆台形状で、検出面からの深さは5cm程度である。

〈埋土〉地山ブロックを極微量含む暗褐色土を主体とする。

〈遺物〉出土していない。

#### 22号溝跡（第16図、写真図版9）

〈位置・検出状況・重複〉IE8t～9tグリッドに位置する。地山面で検出した。サブトレンチを入れ断面を確認したところ23号溝跡と重複し本遺構のほうが新しいと判断したが、調査期間の都合上、両遺構を同時に掘り下げた。

〈規模・形状〉東西方向、直線状に延びる。西側は徐々に深さを減じ立ち上がり、東側は調査区外へ延びる。全長5.3m。上述の通り北側の上端を消失するが、東側調査区境での上幅は0.7m、下幅は0.25m、断面形はU字状となる。検出面からの深さは15cm程度である。

〈埋土〉混入物の少ない黒褐色土を主体とする。

〈遺物〉出土していない。

#### 23号溝跡（第16図、写真図版9）

〈位置・検出状況・重複〉IE8t～9aグリッドに位置する。地山面で検出した。重複する22号溝跡より古い。

〈規模・形状〉東西方向、直線状に延びる。西側は徐々に深さを減じ立ち上がり、東側は調査区外へ延びる。全長4.5m。重複遺構により南側の北端が消失しており、東側調査区境で残存する上幅1.2m、下幅は0.95m、西へ行くほど幅が狭くなる。断面形は浅皿状で、検出面からの深さは20cm程度である。

〈埋土〉黒褐色～暗褐色土を主体とする。下部が砂とシルト層の互層、上部が地山ブロックを含む層となり、3・4号溝跡の堆積状況と類似する。

〈遺物〉出土していない。

#### 24号溝跡（第16図、写真図版9）

〈位置・検出状況・重複〉IE9tグリッドに位置する。地山面で検出し、重複する遺構はない。

〈規模・形状〉東西方向、直線状に延びる。西側は深さを減じ立ち上がり、東側は調査区外へと延びる。全長3.7m、調査区境での上幅は1.2m、下幅は0.9m、断面形は皿状となる。検出面からの深さは25cm程度である。

〈埋土〉黒褐色土を主体とする。底面直上から壁際に地山ブロックを極微量含む層（3層）が堆積し、その上は砂層（2層下部）、粘土層（2層上部）、粘土質シルト層（1層）となる。埋土最上部の1層に地山ブロックを含まない点を除くと4号溝跡と主体土・堆積状況が非常に類似している。

〈遺物〉出土していない。

#### 25号溝跡（第17図、写真図版9）

〈位置・検出状況・重複〉ID10q～11rグリッドに位置する。地山面で検出し、重複する遺構はない。

〈規模・形状〉東西方向、直線状に延びる。西側は深さを減じて立ち上がり、東側は調査区外へと延びる。全長は5.25m。調査区壁際での上幅は0.9m、下幅は0.3m、断面形は逆台形状となる。検出面からの深さは、25cm程度である。

〈埋土〉暗褐色土を主体とする。底面に多量の礫を含み、埋土中部には地山ブロック層が堆積する。

〈遺物〉出土していない。

**26号溝跡**（第11図、写真図版9）

〈位置・検出状況・重複〉I D 4 k ~ 4 n グリッドに位置する。地山面で検出し、近現代の溝跡と重複しこれに切られる。

〈規模・形状〉東西方向、直線状に延びる。南側は深さを減じて立ち上がり、北側は近現代の溝跡との重複部で消失する。全長14.8m、上幅0.50~0.90m、下幅0.10~0.25mを測る。断面形は逆台形状で中央付近は東側の上部が浅皿状に広がる。検出面からの深さは20cm程度である。

〈埋土〉下部が地山ブロックを微量含む、黒褐色土を主体とする層、上部が地山ブロック層となる。堆積状況は8号溝跡と類似する。

〈遺物〉近世陶磁器が4.9g出土しているが小片のため図化していない。

**27号溝跡**（第11図、写真図版10）

〈位置・検出状況・重複〉I D 6 j ~ 5 k グリッドに位置する。地山面で検出した。重複する遺構はないが、本遺構自体が2条である可能性がある。この場合北側のものが新しい。

〈規模・形状〉南北方向、直線状に延びるが、南側で平面形に段差が生じ若干方向が変わる。両端は立ち上がり、全長は6.7m、段差の北側は4.5m、南側は2.2mを測る。上幅は0.20~0.50m、下幅は0.15~0.30m、断面形はU字状となり、平面形で段差のある部分の断面形はU字状のものが重なる形状となる。検出面からの深さは5~10cm程度である。

〈埋土〉段差部分で埋土を確認したところ、中央付近底面が浅くなるあたりに地山ブロックを多く含む層（3層）があり、これをさき黒色土を主体とする埋土（1・2層）となる。堆積状況および、上述の底面形から判断すると、北側と南側は別遺構の可能性が考えられる。

〈遺物〉近世陶磁器0.9gが出土しているが小片のため図化していない。

**28号溝跡**（第17図、写真図版10）

〈位置・検出状況・重複〉I E 9 s ~ 10 t グリッドに位置する。地山面で検出した。重複する21号溝跡との新旧関係ははっきりしないが、本遺構のほうが新しい可能性がある。

〈規模・形状〉東西方向、直線状に延びる。西側は立ち上がり、東側は調査区外へと延び、全長は4.0mを測る。調査区境での上幅は0.60m、下幅は0.15m、断面形は逆台形状となる。検出面からの深さは15cm程度である。

〈埋土〉暗褐色土を主体とする。

〈遺物〉出土していない。

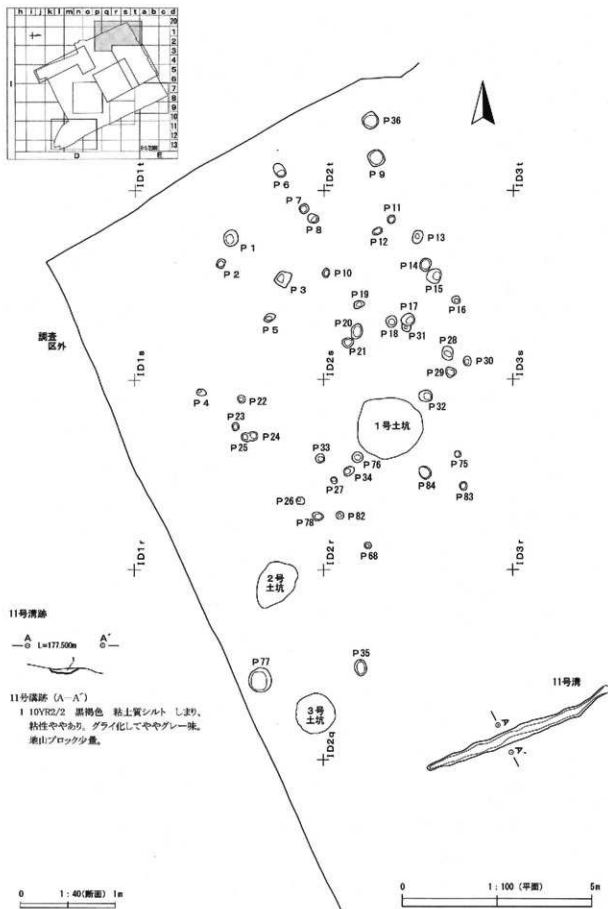
**29号溝跡**（第12・14図、写真図版10）

〈位置・検出状況・重複〉I E 3 s グリッドに位置する。地山面で検出し、その位置から4号溝跡と同一遺構と判断し調査したが、断面形状・埋土が異なることから別遺構と判断した。重複する遺構はない。

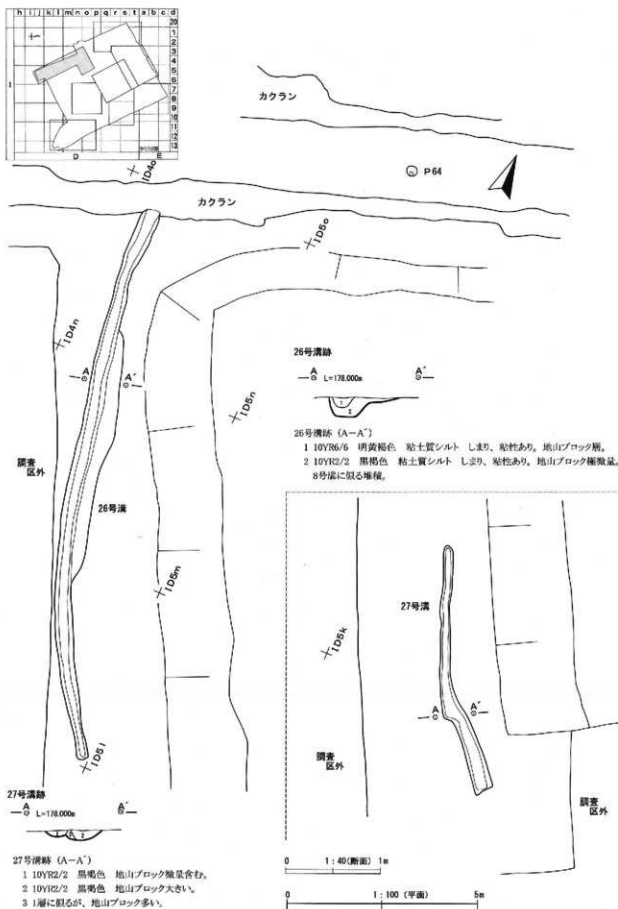
〈規模・形状〉東西方向、直線状に延びる。東西端は深さを減じて立ち上がり、全長は1.8mを測る。上幅0.30m、下幅0.20m程度、断面形は逆台形状となる。検出面からの深さは10cm程度である。

〈埋土〉灰黄褐色土を主体し、基本層序II層に似る。

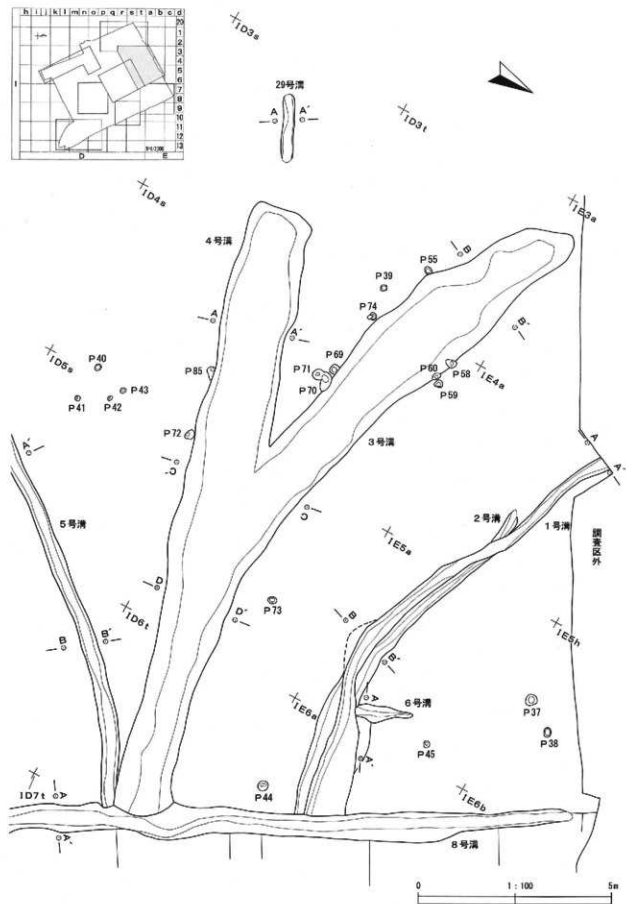
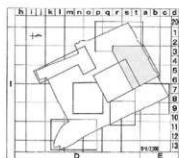
〈遺物〉出土していない。



第10図 溝跡・柱穴 (I)

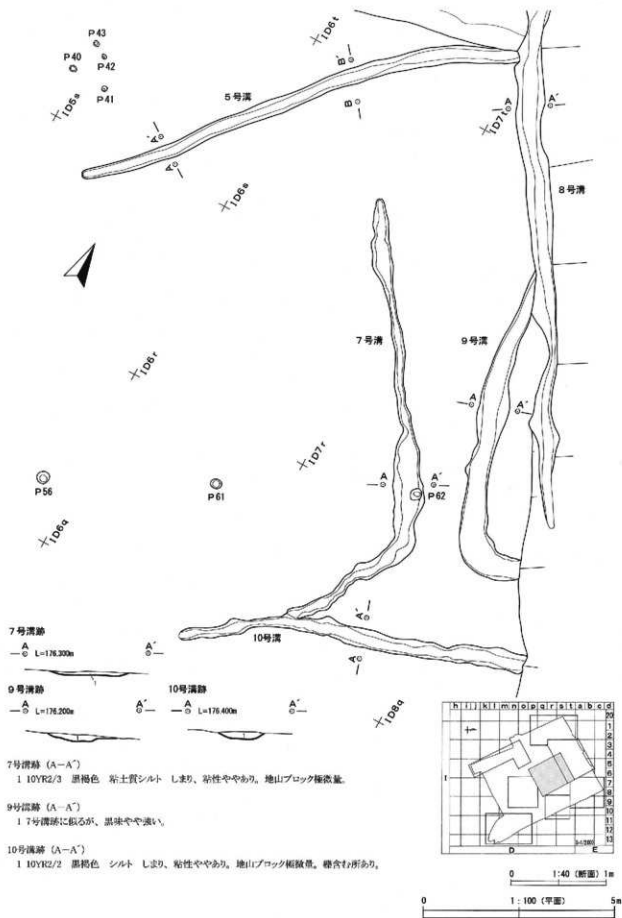


第11図 溝跡・柱穴 (2)



第12図 溝跡・柱穴 (3)





第13図 溝跡・柱穴 (4)

2 検出遺構と出土遺物

1号溝跡

—A— L=176.900m —A'—  
—B— L=176.900m —B'—



1・2号溝跡

—B— L=176.900m —B'—



3号溝跡

—A— L=176.500m —A'—



4号溝跡

—B— L=176.500m —B'—



1号溝跡 (A-A')

- 1 10YR3/3 に近い黄褐色 粘土質シルト しまり、粘性ややあり。

1・2号溝跡 (B-B')

- 1 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト しまり、粘性ややあり。地山ブロック極微量。  
2 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト しまり、粘性ややあり。地山ブロック腐状 (径5~10cm) に入る。多い。  
3 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト しまり、粘性ややあり。1層より茶色味。地山ブロック (径1~2cm) 少量腐状に入る。  
4 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト しまりあり、粘性あり。地山ブロック入らない。

3・4号溝跡

—C— L=176.300m —C'—



3・4号溝跡

—D— L=176.300m —D'—



3号溝跡 (A-A')

- 1 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト しまり、粘性ややあり。地山ブロック腐状 (径5cm) に入る。ややシャリシャリ。砂含むか?  
2 10YR3/2 黒褐色 しまり、粘性ややあり。粘土層。  
3 10YR3/2 黒褐色 シルト しまり、粘性ややあり。地山ブロックがやや多く腐状に入る。(粒径1割より小さい。)

3・4号溝跡 (B-B'~D-D')

- 1 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト しまり、粘性ややあり。地山ブロックが微量腐状に入る。底面に多い。シャリシャリってA-A'の1層に似ている。  
2 10YR3/2 黒褐色 粘土層 しまり、粘性非常にあり。底面に砂利あり。  
3 10YR3/2 黒褐色 粘土層 しまり、粘性あり。2層よりも砂の量多く全体に混じる。  
4 10YR3/2 黒褐色と地山ブロックの混入。粘土質シルト。  
5 1層に似るが地山ブロック極微量。  
6 1層に似るが地山ブロック極微量。  
7 10YR3/2 黒褐色 砂利 しまり、粘性ややあり。地山ブロック微量含む。

5号溝跡

—A— L=176.400m —A'— —B— L=176.300m —B'—



5号溝跡 (A-A'・B-B')

- 1 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト しまり、粘性ややあり。地山ブロック極微量。  
2 地山ブロック層。  
3 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト しまり、粘性ややあり。きれいな層。  
4 上部が1層、下部が2層と同じ。下部の地山ブロック層が薄いため分層せず。

6号溝跡

—A— L=176.900m —A'—



6号溝跡 (A-A')

- 1 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト しまり、粘性ややあり。地山ブロック少量。  
2 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト しまり、粘性ややあり。ややグレー味。地山ブロック微量。

8号溝跡

—A— L=175.900m —A'—



8号溝跡 (A-A')

- 1 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト しまり、粘性あり。上部に地山ブロック含むところもあり。

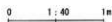
29号溝跡

—A— L=176.500m —A'—

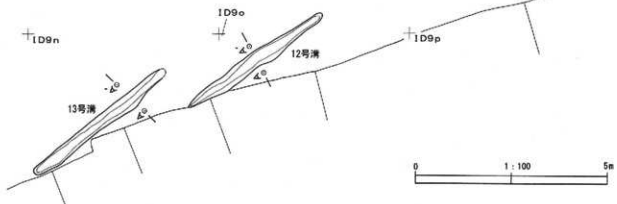
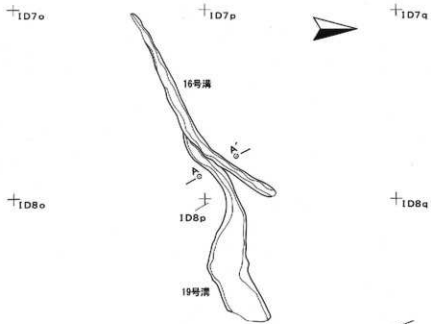
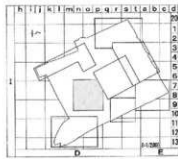


29号溝跡 (A-A')

- 1 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト しまり、粘性ややあり。地山ブロック少量。



第14図 溝跡・柱穴 (5)



## 12号溝跡

—A— L=176.700m A'—



## 12号溝跡 (A-A')

1 10YR3/2 黒褐色 シルト しまり、粘性ややあり、地山ブロック微量。

## 13号溝跡

—A— L=176.700m A'—



## 13号溝跡 (A-A')

1 12号溝跡に似るが、地山ブロック少ない。

## 16・19号溝跡

—A— L=176.800m A'—



## 16・19号溝跡 (A-A')

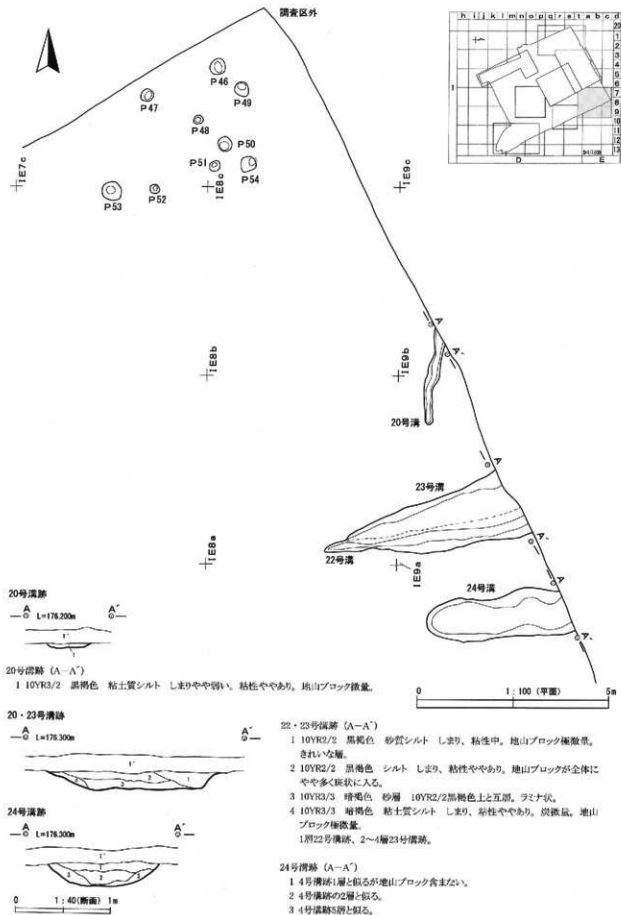
1 10YR2/1 黒色 砂質シルト しまり、粘性やや弱い 地山ブロック微量。

(16号溝)

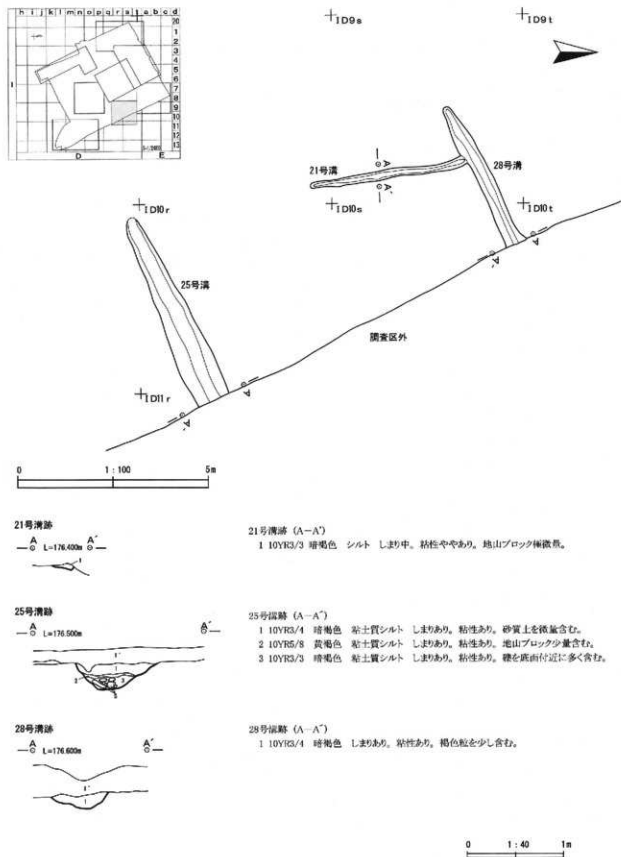
2 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり、粘性ややあり、地山ブロック少量。(19号溝)

0 1:40 1m

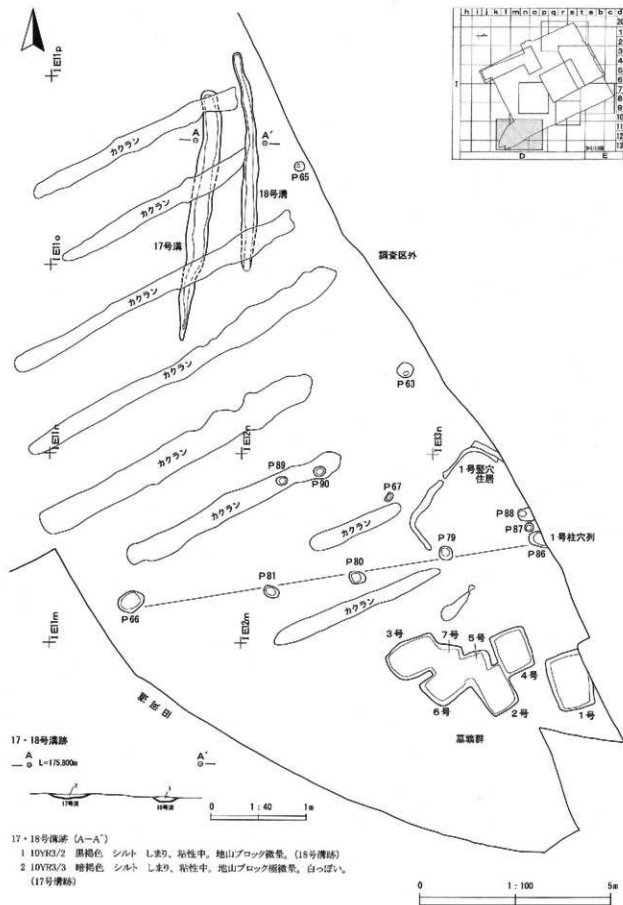
第15図 溝跡・柱穴 (6)



第16図 溝跡・柱穴 (7)



第17図 溝跡・柱穴(8)



17・18号溝跡

— A —  
— B — L=175.800m



17・18号溝跡 (A-A')

- 1 10YR3/2 黒褐色 シルト しまり、粘性中。地山ブロック微量。(18号溝跡)
- 2 10YR3/3 暗褐色 シルト しまり、粘性中。地山ブロック極微量。白っぽい。(17号溝跡)

第18図 溝跡・柱穴 (9)

## (4) 柱穴列・柱穴

## 1号柱穴列(第18図、写真図版10)

〈位置・検出状況・時期・重複〉1D11m~13mグリッドに位置する。地山面で円形の柱穴が5個、列状に検出された。南北方向に対応する柱穴が確認できなかったため、建物ではなく柱穴列とした。柱穴内の上出遺物から近世以降と判断される。これらの柱穴は直線状に並ぶものの軸が揃わない。南側が近世の墓域となるため、これを区切った柵列の可能性はある。1号竪穴住居跡と重複するが、出土遺物より本遺構のほうが新しいと判断される。

〈規模・形状〉東西方向に5個並ぶ(西からP66・81・80・79・88)。全長約11m、西側は旧河道にぶつかり、東側は調査区外へと延びる。柱穴間の距離は、西端のP66-81間が3.5m、それ以外は2.2m程度となる。各柱穴の規模は、直径40cm前後、P66が71×51cmとやや大きい。底面の標高は、地形の傾斜に沿って、北側より南側のほうが深くなる。詳細は第3表に記載する。

〈埋土〉黒色上、黒褐色土、黄褐色土と主体土は一樣ではないが、地山ブロックを斑状に含み埋め戻した様子がうかがえる。P79~81では柱痕も確認できた。

〈遺物〉P80掘方内より銅銭1枚が出土した。銭種は寛永通寶(古寛永)である(銭貨25:写真図版13)。

## 柱穴(第10~13・16・18図、写真図版11)

〈位置・検出状況〉調査区内で89個検出した。大半が地山面で確認し、このうち上記の5個を柱穴列とした。その他84個は調査区北側に集中し、南東部1号竪穴住居跡周辺にも若干まとまりがみられる。しかし、建物配置を把握することができなかった。調査区中央~南西にかけてはほとんど検出されておらず、これは、調査区内でもより削平が深く及んでいることに起因するかもしれない。

〈規模・形状〉円形~楕円形で、直径20~45cm程度のものが多い。詳細は第3表に記載する。

〈埋土〉黒褐色土の掘方をもつものが大半を占め、柱痕が確認できたものは17個である

〈遺物〉P8・28・56で土師器片が出土しているが、小片のため図化していない。

第3表 柱穴一覧(1)

番号	グリッド	規模 (cm)	地山面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ(cm) (検出側~底面)	埋土	地山	柵	柱痕	備考
1	1D1s	43×39	177.260	176.810	47	10YR3/1黒褐色土	○	○		
2	1D1s	25×21	177.277	177.224	5	10YR3/1黒褐色土		○		
3	1D1s	49×47	177.180	176.876	30	10YR3/1黒褐色土	○	○		
4	1D1r	37×28	177.276	177.176	10	10YR3/2黒褐色土	○	○		
5	1D1s	31×21	177.197	177.086	11	10YR3/2黒褐色土		○		
6	1D1t	39×28	177.170	176.996	17	10YR3/1黒褐色土				
7	1D1s	27×24	177.166	177.131	3	10YR3/2黒褐色土	○			
8	1D1s	31×21	177.133	176.925	23	10YR3/1黒褐色土	○			
9	1D2t	46×42	176.984	176.766	22	10YR3/1黒褐色土	○			
10	1D2s	24×20	177.080	176.985	9	10YR3/2黒褐色土	○			
11	1D2s	23×21	176.975	176.910	6	10YR3/2黒褐色土				
12	1D2s	25×18	176.966	176.946	3	10YR3/2黒褐色土	○			

第3表 柱穴一覧(2)

番号	フリップ	規模 (cm)	発見深さ (m)	底辺四角 (m)	深さ (cm) (検出側 底辺)	埋上	跡山	炭	柱	痕	備考
13	1 D 2 s	36×36	176.947	176.665	28	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
14	1 D 2 s	35×30	176.935	176.773	16	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
15	1 D 2 s	41×41	176.909	176.491	51	10Y R 3/1 黒褐色土	○			10Y R 3/1 黒褐色土	
16	1 D 2 s	23×21	176.876	176.787	9	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
17	1 D 2 s	34×32	176.958	176.444	51	10Y R 3/1 黒褐色土	○			10Y R 3/1 黒褐色土	
18	1 D 2 s	31×29	176.990	176.818	17	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
19	1 D 2 s	29×21	177.012	176.867	15	10Y R 3/1 黒褐色土	○			10Y R 3/1 黒褐色土	P31と重複し、新しい
20	1 D 2 s	40×30	177.025	176.896	13	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
21	1 D 2 s	29×27	177.036	176.932	10	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
22	1 D 1 r	22×19	177.262	177.119	14	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
23	1 D 1 r	21×20	177.252	177.073	18	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
24	1 D 1 r	26×25	177.238	177.022	22	10Y R 3/1 黒褐色土	○				P25と重複し、新しい
25	1 D 1 r	25×29	177.254	177.140	11	10Y R 3/2 黒褐色土	○				P24と重複し、古い
26	1 D 1 r	23×19	177.184	177.025	16	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
27	1 D 2 r	18×18	177.101	177.020	8	10Y R 3/2 黒褐色土					
28	1 D 2 s	40×32	176.895	176.695	20	10Y R 3/1 黒褐色土	○			10Y R 3/1 黒褐色土	
29	1 D 2 s	28×28	176.877	176.795	8	10Y R 3/1 黒褐色土					
30	1 D 2 s	25×19	176.887	176.707	18	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
31	1 D 2 s	39×25	176.966	176.771	20	10Y R 3/1 黒褐色土	○				P17と重複し、古い
32	1 D 2 r	36×30	176.938	176.699	24	10Y R 3/1 黒褐色土	○			10Y R 3/1 黒褐色土	
33	1 D 1 r	26×24	177.129	176.996	13	10Y R 3/1 黒褐色土	○			10Y R 3/1 黒褐色土	
34	1 D 2 r	30×22	177.115	177.008	11	10Y R 3/1 黒褐色土					
35	1 D 2 q	44×32	177.242	177.195	5	10Y R 2/1 黒色土					
36	1 D 2 s	46×44	178.002	177.672	33	10Y R 4/4 褐色土	○			10Y R 3/2 黒褐色土	
37	1 E 5 b	30×28	178.002	178.440	22	10Y R 3/1 黒褐色土	○	○			
38	1 E 5 b	24×19	178.618	178.193	42	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
39	1 D 3 s	18×17	176.331	176.253	8	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
40	1 D 4 s	20×16	176.288	176.069	22	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
41	1 D 5 s	14×14	176.268	176.136	13	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
42	1 D 5 s	14×10	176.237	176.151	8	10Y R 3/1 黒褐色土					
43	1 D 5 s	15×14	176.238	176.163	7	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
44	1 E 6 a	27×25	178.507	178.391	16	10Y R 3/1 黒褐色土	○			10Y R 2/3 黒褐色土	
46	1 E 5 a	17×16	178.618	178.399	22	10Y R 3/1 黒褐色土					
46	1 E 8 c	44×40	174.800	174.095	71	10Y R 5/6 黄褐色土	○			10Y R 3/2 黒褐色土	
47	1 E 7 c	32×32	174.815	174.515	30	10Y R 6/8 明黄褐色土	○			10Y R 3/1 黒褐色土	
48	1 E 7 c	24×21	175.001	174.645	15	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
49	1 E 8 c	38×38	174.820	174.201	56	10Y R 4/6 褐色土				10Y R 3/1 黒褐色土	
50	1 E 8 c	37×36	174.865	174.457	40	10Y R 3/2 黒褐色土	○	○			
51	1 E 8 c	30×27	174.816	174.626	22	10Y R 3/2 黒褐色土	○			10Y R 3/2 黒褐色土	
52	1 E 7 b	25×25	174.796	174.495	30	10Y R 3/1 黒褐色土	○			10Y R 3/2 黒褐色土	



第3表 柱穴一覧(3)

番号	グラッド	規模 (m)	積石の高さ (m)	近山物高 (m)	深さ (cm) (検出面-風面)	埋土	地山	段	柱 版	備 考
53	I E 7 b	54×48	174.785	174.560	22	10Y R 3/2 黒褐色土	○		10Y R 3/2 黒褐色土	
54	I E 8 c	45×38	174.865	174.270	59	10Y R 3/1 黒褐色土	○			
55	I D 3 t	22×19	176.310	176.225	9	10Y K 3/2 黒褐色土				
56	I D 5 q	31×31	176.437	176.106	33	10Y R 3/1 黒褐色土	○		10Y R 2/3 黒褐色土	
57	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	
58	I D 4 t	28×20	176.227	175.986	24	10Y R 3/2 黒褐色土				3号溝と重複し、古い
59	I D 4 t	23×22	176.202	176.132	7	10Y R 3/1 黒褐色土				
60	I D 4 t	20×(14)	176.216	176.063	16	10Y R 3/1 黒褐色土				3号溝と重複し、古い
61	I D 6 q	31×25	176.371	175.921	44	10Y R 3/1 黒褐色土	○		10Y R 3/2 黒褐色土	
62	I D 7 r	33×31	176.072	175.919	15	10Y R 3/1 黒褐色土				7号溝と重複し、古い
63	I D 12 n	45×40	175.517	175.047	47	10Y R 3/2 黒褐色土	○			
64	I D 5 n	28×25	177.180	176.875	28	10Y R 3/1 黒褐色土				
65	I D 12 o	28×25	176.437	175.313	12	10Y R 3/1 黒褐色土				
66	I D 11 m	71×53	175.830	175.583	25	10Y R 2/1 黒色土	○			柱穴列
67	I D 12 m	25×15	175.518	175.454	6	10Y K 2/1 黒色土				
68	I D 2 r	19×17	177.959	176.951	11	10Y R 3/1 黒褐色土	○			
69	I D 4 t	(28)×25	176.229	176.009	21	10Y R 3/1 黒褐色土	○			3号溝と重複し、古い
70	I D 4 t	50×(27)	176.207	175.945	26	10Y R 3/1 黒褐色土				3号溝と重複し、古い、P71と重複、新田不明
71	I D 4 t	32×31	176.207	175.976	23	10Y R 3/2 黒褐色土	○			P70と重複するが、新田不明
72	I D 5 t	30×22	176.104	175.975	23	10Y R 3/1 黒褐色土	○			
73	I D 5 t	25×19	175.891	175.690	20	10Y K 3/1 黒褐色土				
74	I D 4 t	20×20	176.303	176.205	10	10Y R 3/2 黒褐色土				
75	I D 2 r	19×17	176.958	176.903	6	10Y R 3/1 黒褐色土				
76	I D 2 r	29×29	177.104	177.000	10	10Y R 3/2 黒褐色土	○			
77	I D 1 q	66×58	177.392	176.912	48	10Y R 3/1 黒褐色土	○			
78	I D 1 r	28×24	177.144	176.998	15	10Y R 3/2 黒褐色土	○			
79	I D 13 m	45×34	175.410	175.166	24	10Y R 3/1 黒褐色土	○		10Y R 3/2 黒褐色土	柱穴列
80	I D 12 m	45×38	175.536	175.232	30	10Y R 3/2 黒褐色土	○		10Y R 2/2 黒褐色土	柱穴列
81	I D 12 m	43×31	175.658	175.235	42	10Y R 5/8 黄褐色土	○		10Y R 3/2 黒褐色土	柱穴列
82	I D 2 r	22×21	177.112	176.985	13	10Y K 3/2 黒褐色土				
83	I D 2 r	24×19	176.918	176.835	8	10Y R 3/1 黒褐色土				
84	I D 2 r	35×30	176.946	176.900	5	10Y R 2/2 黒褐色土	○		10Y R 3/2 黒褐色土	
85	I D 4 s	33×(18)	176.215	175.964	25	10Y R 3/1 黒褐色土	○			4号溝と重複し、古い
86	I D 13 m	(38)×40	175.415	174.925	49	10Y R 3/1 黒褐色土	○		10Y K 2/2 黒褐色土	柱穴列・1号柱穴付近と重複
87	I D 13 m	24×20	175.432	175.368	6	10Y K 3/2 黒褐色土	○			1号柱穴付近と重複
88	I D 13 m	(40)×27	175.442	175.339	10	10Y R 3/1 黒褐色土	○			1号柱穴付近と重複
89	I D 12 m	36×24	175.652	175.696	6	10Y R 3/1 黒褐色土	○			
90	I D 12 m	30×27	175.693	175.554	4	10Y R 3/1 黒褐色土	○			

## (5) 墓 塚 (第18図、写真図版12)

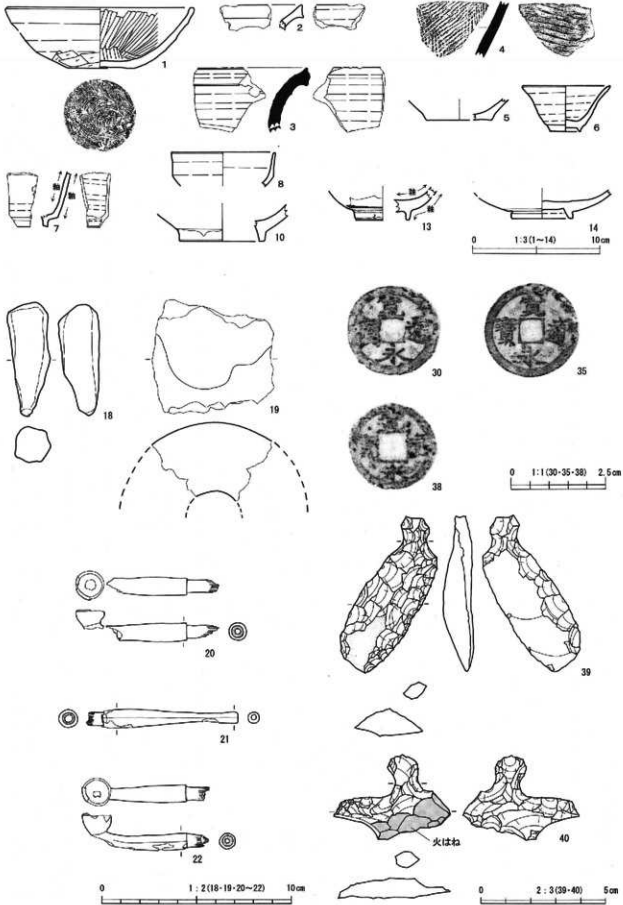
調査区南東隅で墓塚を7基検出した。これらは旧地権者の先祖塚として認識されており、調査開始時にはすでに改葬が行われ、墓標は近隣の福蔵寺へ移設された後であった。旧地権者とともに同寺へ墓標を確認しにいったが、調査区内にあったものを見つけることはできなかった。墓塚自体は上部が改葬時に擾乱されていたものの、掘方下部は残存していた。墓塚内で人骨は確認できず、埋葬方法・姿勢などは不明であるが、遺物類は若干出土した。これらの墓塚の詳細については第4表に記載した。

第4表 墓塚一覧

遺構名	グリッド	土層関係 (深>白+赤)	規模 (m) (東西・南北)	形状	方位	地面積 高 (m)	高さ (cm)	遺物 ( ) 内は遺物番号				備 考	
								陶磁器	キセル	銭貨	釘		その他
1	ID13n	—	1.54×1.05<	長方形	N-17° W	174.13	77	(6)	—	6枚 (26・27)	—	—	
2	ID13n	≠4 >5?	(1.15)×(0.86)	長方形	N 33° W	174.43	62	—	一釘(20・21)	20枚以上 (28~30)	115.3 g	榿材	
3	ID2n・ 13n・12 o・13o	>7	(1.88)×(0.80)	長方形	N-63° E	174.51	49	—	—	—	—	獣骨 (馬骨?)	動物区
4	ID6n・ 13o	≠2	1.15×0.91	長方形	N 23° W	174.30	65	—	一釘(22・23)	2枚以上 (37)	138.1 g	—	
5	ID13n	<2? >6・7	0.97×0.61<	方形	N-70° E	174.56	35	—	—	1枚(38)	—	—	
6	ID2n・ 13n	<5 >7	0.93×(0.83)	方形	N 35° W	174.40	32	—	—	—	—	—	
7	ID6n・ 13n	<3・5・6	0.6×(0.95)	方形?	—	174.57	40	—	摩音(24)	—	3.3 g	炭化物片	

## (6) 出 土 遺 物 (第19図、写真図版13)

出土遺物は平安時代の土器1520.6g(土師器558.6g、須恵器163.7g)、近世陶磁器798.3g、土製品2点、キセル5点、銭貨30枚以上(115.5g)、釘256.7g、剥片石器2点、剥片4点、獣骨が出土した。土器・陶磁器は遺構内よりもI~III層中に含まれるものが多い。いずれも小破片で器形を復元できるものはほとんどない。キセル・銭貨は墓塚の服装品、釘は榿材をとめたものと考えられる。



第19図 出土遺物

第5表 出土遺物一覧(1)  
(土器)

番号	遺構名	位置・層位	種別	器種	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調査	備考	図版	写真図版	収番号
1	1号土層	カマド連込1層	土師器	環	口~底	15.0	4.4	5.4	口ノ外)ノ半ケズリ・ 内)ミガキ・黒色処理・ 底)凹陥条列リ		19	13	1
2	1号土坑	上郭	土師器	甕	口縁	-	(1.9)	-	口ノ口		19	13	2
3	1号土坑	1層	須置器	人型	口縁	-	(5.0)	-	口ノ口		19	13	4
4	3・4号溝跡	一括	須置器	大甕	胴部	-	-	-	タタキ		19	13	5
5	8号溝跡	3・4号溝跡重畳部	土師器	環	底部	-	(1.5)	(5.0)	口ノ口		19	13	3
6	1号墓塚	底面	陶磁器	小碗?	口~底	7.0	3.7	4.4	-		19	13	①
7	遺構外	一括	陶磁器	碗	体~底	-	(4.3)	-	-		19	13	②
8	調査区中央近現代溝	一括	陶磁器	碗	口縁	(8.3)	(2.7)	-	-	大甕相馬	19	13	⑤
9	調査区中央近現代溝	一括	陶磁器	碗	体~底	-	(3.0)	(6.8)	-	大甕相馬	19	13	③
10	調査区中央近現代溝	一括	陶磁器	碗	体~底	-	(2.4)	(4.3)	-	左地	19	13	④
11	調査区中央近現代溝	一括	陶磁器	碗	体部	-	(2.4)	(4.3)	-	左地	19	13	⑥
12	調査区中央近現代溝	一括	陶磁器	槽鉢	口縁	-	(2.4)	5.0	-	肥前?	19	13	⑧
13	遺構外	一括	陶磁器	碗	体~底	-	(2.4)	5.0	-	大甕相馬	19	13	⑨
14	遺構外	一括	陶磁器	碗	底部	-	-	-	-		19	13	⑩
15	遺構外	一括	陶磁器	碗	口縁	-	-	-	-		19	13	⑪
16	遺構外	一括	陶磁器	碗	口縁	-	-	-	-		19	13	⑫
17	遺構外	一括	陶磁器	鉢	口~底	-	-	-	-		19	13	⑬

(土製品)

番号	遺構名	位置・層位	種別	器種	最大径(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考	図版	写真図版	収番号
18	1・2号溝跡	一括	刃状	-	6.0	2.2	2.2	22.1		19	13	2
19	4号溝跡	一括	穿孔	-	(6.1)	(6.5)	(3.6)	107.9		19	13	1

(キセル)

番号	遺構名	位置・層位	材質	部位	長さ(cm)	口径・細径	小口径(cm)	重量(g)	備考	図版	写真図版	収番号
20	2号墓塚	一括	銅製品	雁首	(6.9)~(1.5)	1.5	0.9	5.2		19	13	①
21	2号墓塚	一括	銅製品	吸口	8.0	0.6	0.9	4.4		19	13	②

第5表 出土遺物一覽(2)

(キセツ)

番号	遺構名	位置・層位	材質	部位	長さ(cm)	径・幅・厚さ	小孔(cm)	重量(g)	備考	図版	写真図版	仮番号
22	4号盛壇	一拵	銅製品	扉	6.8	(1.5)	0.9	4.1		19	13	③
23	4号盛壇	拵	銅製品	嵌口				0.5				④
24	7号盛壇	一拵	銅製品	扉片				2.2				⑤

(銭貨)

番号	遺構名	位置・層位	種類	銭銘	銭種	径(cm)	重量(g)	枚数	備考	図版	写真図版	仮番号
25	p80	一拵	銅銭	寛永通寶	片寛永		1.0	1	なし			13
26	1号盛壇	底面	銅銭	寛永通寶	不明		2.7	1	なし			13
27	1号盛壇	底面	銅銭	不明	不明		11.1	5	なし			②
28	2号盛壇	一拵	不明	不明	不明		8.2	2以上	あり			③
29	2号盛壇	拵	銅銭?	不明	不明		8.2	3?	なし			④
30	2号盛壇	一拵	銅銭	寛永通寶	不明	2.3	3.0	1	なし			19
31	2号盛壇	一拵	銅銭	寛永通寶	不明		1.7	1	なし			13
32	2号盛壇	一拵	銅銭	寛永通寶	新寛永		0.9	1	なし			13
33	2号盛壇	一拵	不明	不明	不明		31.7	7以上	なし			⑧
34	2号盛壇	一拵	不明	不明	不明		20.2	3以上	あり			⑨
35	2号盛壇	拵	銅銭	寛永通寶	新寛永	2.5	2.7	1	なし			19
36	2号盛壇	一拵	不明	不明	不明		3.8	1	なし			13
37	4号盛壇	拵	不明	不明	不明		18.4	2以上	あり			⑫
38	5号盛壇	一拵	銭銭	寛永通寶	不明	2.3	1.9	1	あり			19

(石器)

番号	遺構名	位置・層位	種別	器型	最大径(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石	備考	図版	写真図版	仮番号
39	遺構外	一拵	剥片石器	石匙(鉄)	6.1	3.6	1.1	16.5	頁岩(奥羽山脈?)	新生代新第三紀		19	13
40	遺構外	拵	剥片石器	石匙(鉄)	3.4	4.6		7.7	頁岩(奥羽山脈?)	新生代新第三紀		19	13
41	1号坑	上部	剥片	—	2.6	3.8	4.7	29.5	頁岩(奥羽山脈?)	新生代新第三紀		—	3
42	3号溝跡	壘部	剥片	—	(1.9)	3.7	1.9	2.9	珪質頁岩(奥羽山脈)	新生代新第三紀		—	4
43	3・4・8号溝跡	壘部部	剥片	—	(2.2)	2.6	0.4	1.6	王土(奥羽山脈)	新生代新第三紀		—	5
44	遺構外	一拵	剥片	—	2.5	2.4	0.7	3.7	王土(奥羽山脈)	新生代新第三紀		—	6

## 3 ま と め

検出された遺構は竪穴住居跡1棟、土坑3基、溝跡27条、柱穴列1基、柱穴84個、墓壇7基である。竪穴住居跡は、調査区の南東端に位置する。削平がひどく煙道部と床面の一部しか残っていないが、残存する規模は3.1×2.5mの方形、煙道は南西壁に位置する。出土遺物から9世紀後半と判断される。

上坑は北東部にまとまっている。3号土坑は桶が埋め込まれ（肥だめか?）、近世以降と考えられるが、これ以外の用途および時期は不明である。

溝跡は、南北方向（1～5・10・11・16・19・22～25・28・29号溝跡）または東西方向（6・8・12・13・17・18・20・21・26・27号溝と）に走るもの、L字状（7・9号溝跡）に屈曲するものにかれる。出土遺物から、26・27号溝跡が近世以降、2～5号溝跡が古代以降、これ以外の時期は不明である。溝跡は端部が浅くなり徐々に消失するものが多く、互いに重なっていても重複部を超えて伸びる例がない。そのため重複部で新旧関係を確認したが、新しい溝によって切られ消失するのか、深さを減じたために掘り込みを確認できないのかを判断しきれない場合が多々あった。その中でも新旧関係を把握できたものは、次のとおりである。8号溝跡が重複する1・2・4・9・10号溝跡のすべてより新しく、その他、旧→新で、2溝跡→1溝跡→6溝跡、19溝跡→16溝跡、23溝跡→22溝跡、となる。これらの溝跡は、整地された段をまたぎ連続して検出されたものはない。しかし、各段の斜面上方ほど溝の深さが浅くなることから、削平され消失していて、本来は連続していたものと考えられる。その位置や埋土の状態から段をまたいで同一遺構の可能性があるものを抽出していくと以下のようなようになる。3・4号溝跡と23号溝跡、5号溝跡と22号溝跡、6号溝跡と7号溝跡、10号溝跡と25号溝跡、11号溝跡と28号溝跡が同一遺構と判断される。これらの溝跡は出土遺物・重複関係・方向などを合わせて考えていくと、現在の水田区画にあり、8・26・27号溝跡が新しく、角度はほぼ同じだが現在の区画よりも内側に収まるもの（6～10号溝跡など）、角度が異なるもの（1～3・5号溝跡など）の順に古くなるのではないかと考えられる。

柱穴は、調査区北側と、南東部で検出された。柱痕が残るものがあったが、建物跡を復元できる配置は認められず、調査区南東部で柱穴列を確認したのみである。

今回の調査では、調査区南東部で竪穴住居跡が1棟検出されたのみであったが、表土中には古代の遺物を含んでおり、周辺に同様の遺構が分布している可能性が考えられる。溝跡は全域で確認されており、現在の水田区画に似るものが多いことから、時期不明が多いものの、比較的新しい可能性が高く、多くは古い水田の区画溝ではないかと思われる。

倉沢 3 区 I 写真図版







道跡遺景（南から）



調査区全景（上方が西）

写真図版1 倉沢3区I・II遺跡全景



調査区全景（上方が西）



調査前（南東から）



検出（北から）



基本土層（南から）



埋め戻し（北西から）

写真図版2 調査区全景・作業風景



全景（東から）



検出（東から）



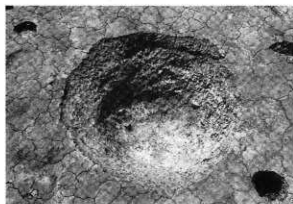
断面（北から）



カマド検出（南から）



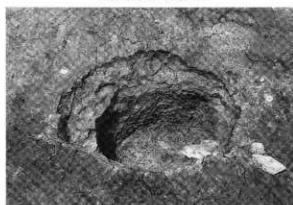
カマド断面（南から）



1号土坑全景（南から）



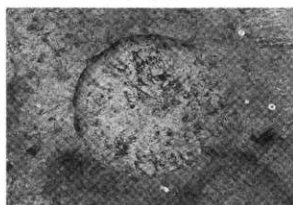
同左断面（南から）



2号土坑全景（南から）



同左断面（南から）



3号土坑全景（南から）



同左木杵出土状況（南から）



1・2号清跡全景（東から）



同左断面（東から）

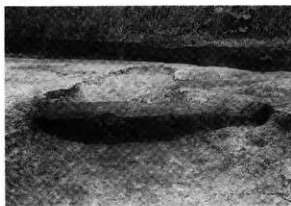
写真図版4 土坑・清跡(1)



3・4号溝跡全景（東から）



同上全景（西から）



3号溝跡断面（南東から）



4号溝跡断面（東から）



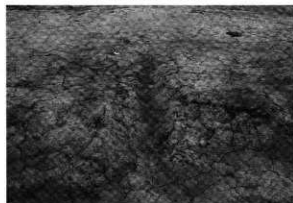
3・4号溝跡断面（東から）



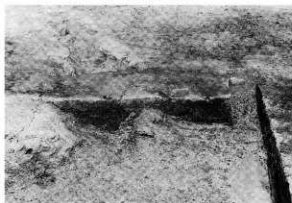
5号溝跡全景 (東から)



同左断面 (東から)



6号溝跡全景 (南から)



同左断面 (南から)



7～9号溝跡全景 (南から)



7号溝跡断面 (南から)



8号溝跡断面 (南から)



9号溝跡断面 (南から)



10号溝跡全景（東から）



同左断面（東から）



11号溝跡全景（東から）



同左断面（東から）



12・13号溝跡全景（南から）



12号溝跡断面（北から）



13号溝跡断面（北から）



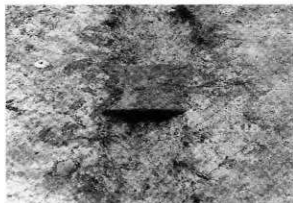
16号溝跡全景（西から）



17・18号溝跡全景（北から）



17号溝跡断面（南から）



18号溝跡断面（南から）



19号溝跡全景・断面（東から）



20号溝跡全景（南西から）



同左断面（南から）



21号溝跡全景（南から）

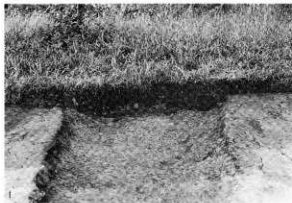


同左断面（南から）





22・23号溝跡全景（西から）



同左断面（西から）



24号溝跡全景（西から）



同左断面（西から）



25号溝跡全景（西から）



同左断面（西から）



26号溝跡全景（南から）



同左断面（南から）



27号溝跡全景（南から）



同左断面（南から）



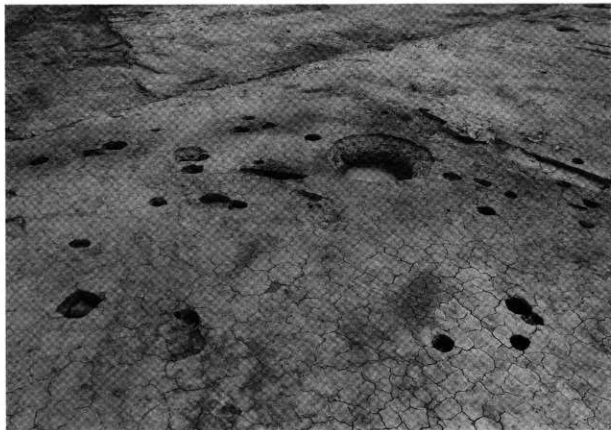
28号溝跡全景（西から）



29号溝跡全景・断面（東から）



1号柱穴列（東から）



柱穴群全景（北西部・西から）



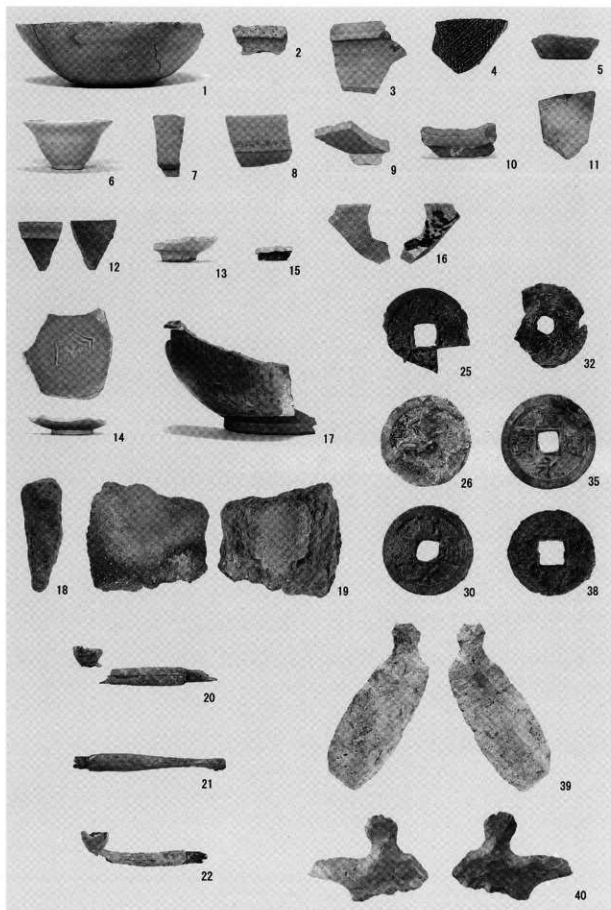
柱穴群全景（北東部・南から）



墓墳群全景（北から）



調査区全景（南から）



写真图版13 出土遺物



## V 倉沢3区II遺跡の調査

### 1 遺跡の立地と基本層序

#### (1) 遺跡の立地

遺跡は低位段丘上に立地する。遺跡全体は緩やかな東斜面と北・西側が急激に落ち込む湿地部からなっており、この先端部、丘陵が岬状に張り出した場所が調査区となる。標高は50cm程度である。現況は宅地で、簡易郵便局の跡地にあたる。

#### (2) 基本土層

東斜面を切り2段の水平面がつくられている。そのため各段の斜面上方(西側)がより削平を受けており、地山層(IV層)中まで削られる。また現況が宅地であったため、配管など地下構造物も多く、攪乱を受ける部分が多い。一方各段の斜面下方では、部分的に旧表土(III層、縄文土器を包含)が残存する。調査区北～西側は湿地となり地山層(IV層)が急激に落ち込む。湿地内は下記のa～c層が堆積しているが、I層による削平が及んでいたため、高い部分からの連続した層位を確認できなかった。IIとa層、IIIとb層の主体土が類似する。

I 10YR 2/2～2/3 黒褐色シルト 砂利・造成盛土。しまり弱い。調査区全体にみられほぼ水平に堆積する。そのため、各段斜面下方は比較的層が厚く、場所によって数層に分かれ、地山ブロック層が挟まれるところもある。

II 10YR 2/2 黒褐色シルト 近世以降の表土。しまりややあり、地山ブロックを少量混入する。上段斜面下方で厚く確認された。

III 10YR 2/1 黒色シルト 旧表土、縄文土器を包含する。カマド状遺構検出面。しまり中、粘性やや弱い。下位層(IV層)とは漸移的に接する。各段斜面下方、周囲より地山が窪む部分(II A 8 f グリッド～II A 9 j グリッド、II A 11 c グリッド付近)に堆積する。

IV 10YR 5/6 黄褐色砂質シルト 地山層、その他遺構検出。下位は砂層・粘土層・粘土礫層などとなる。湿地部ではグライ化する。

(湿地部)

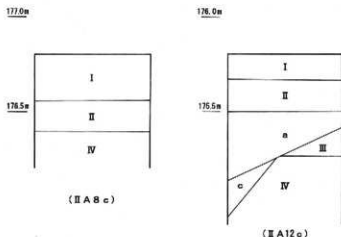
I 砂利・造成盛土。

a 10YR 2/2～3/1 黒褐色砂質シルト 湿地埋没土上部。地山ブロックを含み、ラミナ堆積するところもある。II層の主体土に似る。

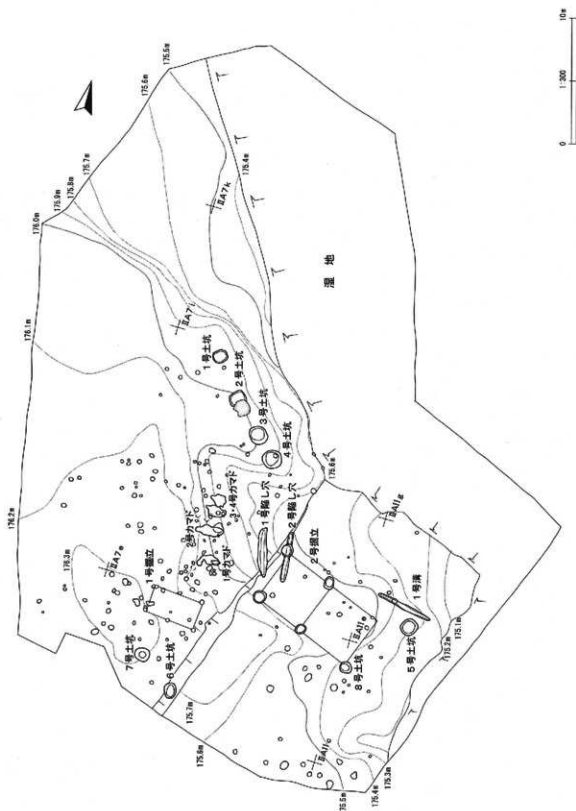
b 10YR 2/1 黒色～10YR 3/1 黒褐色砂質シルト～粘土質シルト 落ち際では底面(地山層)直上に堆積。湿地内ではc層を挟む。本層下部に縄文時代の遺物を包含する。III層と主体土が似る。

c 10YR 2/1 黒色粘土質シルト 腐植層。草木片を含む。縄文時代の遺物を若干含む。

IV 地山層。グライ化している。層中に礫を多く含む。



第20図 基本土層図



第21図 調査区全体図



## 2 検出遺構と出土遺物

### (1) 1. 坑

#### 1号土坑 (第22図、写真図版15)

〈位置・検出状況・重複〉ⅡA 7 h グリッドに位置する。地山面で黒褐色土の円形プランを検出した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉1.10×0.97mの円形である。底面は平坦で1.00×0.87m、壁は垂直に立ち上がる。検出面から深さは45cm程度である。底面中央には、規模0.32×0.28m、深さ23cmの小穴がある。

〈堆積状況〉黒褐色土を主体とし、小穴から連続してV字状に堆積する。壁際には崩落した地山ブロック層(3・5～7層)、小穴・底面及び中心部には地山ブロックを含んだ黒色～黒褐色土層(8～10層、2・4層)となる。小穴内には礫が混入する。自然堆積と判断される。

〈遺物〉出土していない。

#### 2号土坑 (第22図、写真図版15)

〈位置・検出状況・重複〉ⅡA 8 h グリッドに位置する。地山面で検出したところ巨大な礫と周囲にこれを埋めるための掘方(攪乱)があり、さらにその外側(北側)に三日月状の黒色土プランを確認した。この巨礫は田畑や宅地を造成する際に周囲を掘り下げ埋め込まれたものと思われる。遺跡周辺は、このような巨大な礫が散在する土地であり、倉沢3区Ⅰ・Ⅱ両遺跡内でもこのような例が多数確認されている。そのため攪乱と判断し礫を埋めた掘方土を取り除いたところ、本遺構が検出された。

〈規模・形状〉上記の通り、本遺構南側に巨礫が埋め込まれており、崩落の危険性があるため一部掘り下げができなかった。調査した範囲の規模は、東西1.33m、南北1.00mで、円形と推定される。底面は平坦で、1.16×0.90(以上)m、壁はやや外傾するが、ほぼ直立する。検出面からの深さは80cm程度である。底面ほぼ中央には、規模0.25×0.18m、深さ40cmの小穴がある。

〈堆積状況〉黒褐色土を主体とする。小穴内は下部に褐色土層、上部に黒褐色土層となり、これを覆うように底面に黒褐色土層(4層)が堆積する。その上位は壁際に地山ブロックの多い層、中心部は黒色土と、周囲の土坑と同様の堆積状況を示す。自然堆積と判断される。

〈遺物〉出土していない。

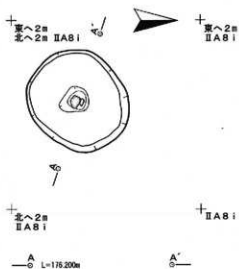
#### 3号土坑 (第23図、写真図版15)

〈位置・検出状況・重複〉ⅡA 8 g グリッドに位置する。Ⅲ層中～地山面で検出し、重複する遺構はない。

〈規模・形状〉1.52×1.37mの円形である。底面は平坦で1.10×1.00m、壁は下部が直立、上部はやや外傾する。検出面からの深さは80cm程度である。底面中央には規模0.26×0.24m、深さ23cmの小穴がある。

〈堆積状況〉黒色～黒褐色土を主体とする。小穴から連続してV字状に堆積している。壁際には崩落した地山ブロック層(7～11・14層)、底面及び中心部には地山ブロックを含んだ黒色～黒褐色土層(12・13層、1～6層)となる。V字状の層の下方、先端付近に礫が混入している(1・4層)。埋土最上部には焼土ブロック層(0層)が堆積する。断面観察時に存在を把握したため、北半は消失してしまっていたが、南半の範囲は0.53×0.18mである。焼土ブロック層以外は自然堆積と考えられる。

1号土坑

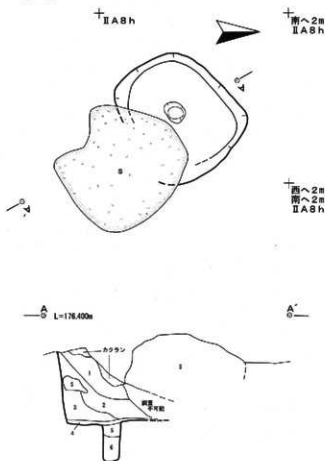


1号土坑 (A-A')

全体グライ化する。

- 1 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりややあり。粘性やや弱。地山ブロックが塊状にやや多い。
- 2 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりややあり。粘性やや弱。地山ブロック微量。
- 3 10YR3/1 黒褐色 砂質シルト しまりややあり。粘性やや弱。少量。地山ブロック大。崩落層。
- 4 10YR4/1 褐色 砂質シルト しまりややあり。粘性やや弱。10YR2/2黒褐色土と地山ブロックがボヤーッと混じり、グライ化したもの。
- 5 3層に似るが、10YR3/1黒褐色土微量。
- 6 5層に似る。
- 7 地山ブロック(砂質)崩落層。
- 8 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりややあり。粘性やや弱。地山ブロック微量。
- 9 8層に似る。
- 10 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりややあり。粘性やや弱。地山ブロック微量。8・9層より明るい。

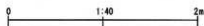
2号土坑



2号土坑 (A-A')

全体グライ化 2層中に巨大礫が入る。自然堆積。

- 1 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまり中。粘性やや弱。白礫目立つ。地山ブロック微量。
- 2 10YR3/1黒褐色砂質シルトと地山ブロックの混土。ボヤーッと混じる。しまり弱。砂質。
- 3 2層に似るが、地山ブロック多い。しまり弱い。砂質。
- 4 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト 1層より深い。
- 5 10YR2/3 黒褐色 砂質シルト しまりあり。粘性あり。褐色粘土を少し含む。
- 6 10YR4/4 褐色 砂質シルト しまりあり。粘性あり。



第22図 土坑 (1)

〈遺物〉縄文土器(3.91g)が出土したが小片のため図化していない。また検出面で石織が1点出土した(32:第34図、写真図版22)。

#### 4号土坑(第23図、写真図版15・16)

〈位置・検出状況・重複〉II A 8 g・9 g グリッドに位置する。地山面で、黒褐色土の円形プランを検出し、遺構中央に焼土ブロックの広がりを確認した。P140と重複し、これより古い。

〈規模・形状〉1.52×1.44mの円形である。壁は上部にやや外傾する。検出面からの深さは、85cm程度である。底面は1.12×1.02cm、中央に25×19cm、深さ24cmの小穴がある。

〈堆積状況〉黒褐色土を主体とし、小穴から連続してV字状に堆積する。壁際には崩落した地山ブロック層が(10~12層)がある。小穴は黒褐色土を少量含む褐色土層(14層)、底面付近は暗褐色・褐色土層(8・9・13層)となり、埋土中央は、地山ブロックを含んだ黒褐色・暗褐色土層(2~7層)となる。埋土上部の1層は、焼土ブロックを斑状に混入しているため、人為堆積の可能性がある。これ以外は自然堆積と考えられる。

〈遺物〉出土していない。

#### 5号土坑(第24図、写真図版16)

〈位置・検出状況・重複〉II A 11 c グリッドに位置する。地山面で黒褐色土の円形プランを確認した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉1.32×1.18mの円形である。礫を含む地山を掘り込んでいるため、底面から壁は礫が露出しており、凹凸がみられる。底面は1.04×0.87m、壁は外傾して立ち上がる。検出面から深さは50cm程度である。底面中央に規模0.46×0.28m、深さ12cmの小穴を持つ。

〈堆積状況〉底面直上及び壁際に地山ブロックが多く堆積し、中央部は礫を含む黒色~黒褐色土が主体となる。自然堆積と判断される。小穴の埋土は確認することができなかった。

〈遺物〉出土していない。

#### 6号土坑(第24図、写真図版16)

〈位置・検出状況・重複〉II A 8 c グリッドに位置する。調査区上段と下段の境、斜面部分の地山面で検出した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉1.14×0.88mのやや南北に長い楕円形である。底面は平坦で0.97×0.58m、南側に巨大な礫が置かれている。壁は外傾して立ち上がり、検出面からの深さは最大50cm程度である。

〈堆積状況〉地山ブロック微量含む黒褐色土を主体とする単層である。埋土は茶味を帯びており、基本層序II層と類似する。しまりも弱く、他の土坑と埋土堆積状況が異なる。近世以降の可能性がある。

〈遺物〉出土していない。

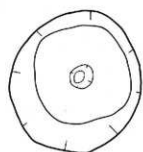
#### 7号土坑(第24図、写真図版16)

〈位置・検出状況・重複〉II A 7 c・8 c グリッドに位置する。地山面で黒褐色の円形プランを確認した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉1.16×1.05mの円形である。底面は0.57×0.53m、やや丸みを帯びており、壁は外傾して立ち上がる。検出面からの深さは40cm程度である。

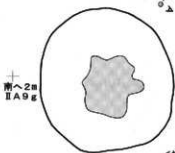
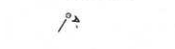
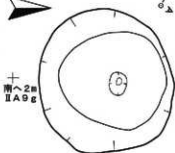
〈堆積状況〉下部黒色土、上部黒褐色土を主体とし、地山ブロックを混入する。間に主体土と、地山

## 3号土坑

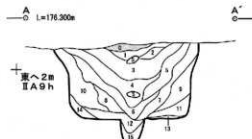


(焼土ブロック範囲)

## 4号土坑



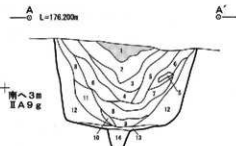
&lt;焼土ブロック範囲&gt;



## 3号土坑 (A-A')

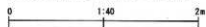
全体に白磁含む。

- 0 10YR2/1 黒色 砂質シルト しまり中。粘性やや弱。7.5YR5/6 暗褐色土の凝土ブロック少量。
- 1 10YR2/1 黒色 砂質シルト しまり中。粘性やや弱。
- 2 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト しまり中。粘性やや弱。ブロック層。やや白磁あり。
- 3 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまり中。粘性やや弱。地山ブロック微量。炭(径5mm)微量。白磁他より多い。
- 4 10YR2/1 黒色 砂質シルト しまりやや弱。粘性やや弱。最も黒い層。地山微量。
- 5 10YR3/2 黒褐色シルトと地山ブロックが薄状に混じる。
- 6 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト しまり中。粘性やや弱。地山ブロックをボヤッと少なく含む。
- 7 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト しまり中。粘性やや弱。地山ブロックをボヤッと多く含む。
- 8 7層に似る。
- 9 地山ブロック層。
- 10 地山ブロック層。
- 11 10YR3/2 黒褐色砂質シルトと地山ブロック(大)の互層。
- 12 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト しまり中。粘性中。地山ブロック微量。
- 13 10YR2/1 黒色 砂質シルト しまり中。粘性中。地山ブロック少量。
- 14 地山ブロック(砂質)崩落層。
- 15 10YR4/3 に近い黄褐色 砂質シルト しまり中。粘性ややあり。粘土地山含むため明るい色。



## 4号土坑 (A-A')

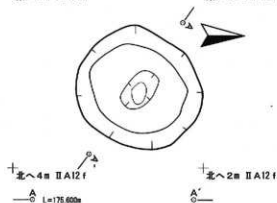
- 1 7.5YR4/6 褐色 砂質シルト しまりあり。粘性あり。焼土ブロックを多く含む層。10YR2/3 黒褐色土を少量含む。
- 2 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりあり。粘性あり。焼土粒、褐色土粒を少量含む。
- 3 10YR2/3 黒褐色 砂質シルト しまりあり。粘性あり。地山ブロックを微量含む。
- 4 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト しまりあり。粘性あり。地山ブロックを微量含む。
- 5 10YR3/4 暗褐色 砂質シルト しまりあり。粘性あり。地山ブロックを少量含む。
- 6 10YR2/3 黒褐色 砂質シルト しまりあり。粘性あり。地山ブロックを少量含む。
- 7 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト しまりあり。粘性あり。地山ブロックを微量含む。
- 8 10YR4/4 褐色 砂質シルト しまりあり。粘性あり。黒褐色土を少し含む。地山の砂を少し含む。
- 9 10YR4/4 褐色 砂質シルト しまりあり。粘性あり。地山の砂を少し含む。
- 10 10YR6/6 明黄褐色 砂質シルト しまりあり。粘性あり。地山の砂粒を少し含む。壁崩落土?
- 11 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト しまりあり。粘性あり。砂質シルト 壁崩落土?
- 12 10YR6/6 明黄褐色 砂質シルト しまりあり。粘性あり。砂質シルト 壁崩落土?
- 13 10YR3/2 暗褐色 砂質シルト しまりあり。粘性あり。地山ブロック土粒を少量含む。
- 14 10YR4/6 褐色 砂質シルト しまりあり。粘性あり。黒褐色土粒を少し含む。



第23図 土坑(2)

5号土坑

北へ4m 東へ2m II A12 f



5号土坑 (A-A')

しまり中、粘性やや弱 (すべて、砂質シルト。

- 1 10YR2/1 黒色 砂質シルト しまり中、粘性やや弱い。地山ブロック微量。白礫が地より多い。
- 2 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト しまり中、粘性やや弱い。地山ブロック微量。
- 3 10YR2/1 黒色 砂質シルト しまりやや弱い、粘性やや弱い。10YR3/2黒褐色土微量。礫が中心に多い。
- 4 6層に似る。
- 5 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト しまりやや弱い、粘性やや弱い。下面に礫・焼土ブロック入る。
- 6 地山ブロック大量。10YR3/2黒褐色土少量。
- 7 10YR3/2黒褐色シルトと地山の強土。
- 8 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト しまり中、粘性やや弱い。地山と10YR3/2黒褐色土に混じったものか? ボヤーンとする。
- 9 地山ブロック層。(砂質)
- 10 注記なし。

6号土坑

北へ4m 西へ2m II A 8 d

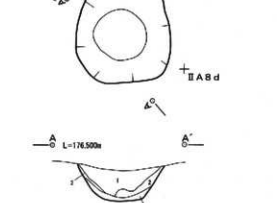


6号土坑 (A-A')

- 1 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや弱、粘性中。地山ブロック微量。

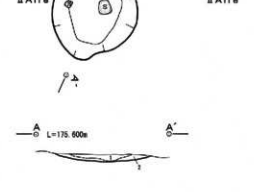
7号土坑

東へ1m II A 8 d



8号土坑

北へ3m II A11 e

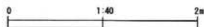


8号土坑 (A-A')

- 1 10YR2/1 黒色 砂質シルト しまり中、粘性なし。地山ブロック微量。炭屑微量。
- 2 10YR3/1 黒褐色 砂質シルト しまり中、粘性なし。地山ブロック少量。

7号土坑 (A-A')

- 1 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりややあり、粘性やや弱。地山ブロック微量。
- 2 10YR2/1黒色砂質シルトと地山(砂質)の互層。
- 3 10YR2/1 黒色 砂質シルト しまりややあり、粘性やや弱。地山極微量。



砂が互層となり水性堆積のような層を挟む。他の土坑と比べ黒味が強い。自然堆積と判断される。

〈遺物〉 出土していない。

### 8号土坑 (第24図、写真図版17)

〈位置・検出状況・重複〉 II A 10 d・11 d グリッドに位置する。地山面で黒褐色土の円形プランを確認した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 1.00×0.90mの円形である。断面形は浅皿状で検出面からの深さは7cmほどである。

〈堆積状況〉 黒色～黒褐色土を主体とし、地山ブロック、炭化物を混入する。

〈遺物〉 埋土上部より縄文土器片が13.47g出土したが小片のため図化していない。

### (2) 陥し穴状遺構

#### 1号陥し穴状遺構 (第25図、写真図版17)

〈位置・検出状況・重複〉 II A 9 e・9 f グリッドに位置する。地山面で黒褐色の溝状のプランを検出した。重複する遺構はない。

〈規模・形状〉 上端3.82×0.74m、下端3.59×0.25mの溝状で、検出面からの深さは、95cm程度である。断面形は、下部がほぼ直立し、上部が外傾する。底面はほぼ平坦である。

〈堆積状況〉 黒褐色・暗褐色土を主体とする。壁際には崩落した地山ブロック層(3層)がある。底面には黒色土層(9層)が入り、崩落と堆積が繰り返され、中央部まで黒褐色・暗褐色土層と褐色土層(4～8層)が交互に堆積する。上部は黒色・黒褐色土層(1・2層)となる。自然堆積である。

〈遺物〉 不定形石器が出土している(33・36:写真図版22)。

#### 2号陥し穴状遺構 (第25図、写真図版17)

〈位置・検出状況・重複〉 II A 9 e・9 f グリッドに位置する。地山面で黒褐色の溝状のプランを検出した。2号掘立柱建物跡のP189と重複し、これより古い。

〈規模・形状〉 上端3.95×0.41m、下端3.72×0.29mの溝状で、検出面からの深さは60cm程度である。断面形はU字形である。底面はほぼ平坦である。

〈堆積状況〉 黒褐色土と褐色土が交互に堆積し、底面には黒色～黒褐色土層(4・5層)、埋土中央は褐色土層(2・3層)、上部には黒褐色土層(1層)となる。自然堆積である。

〈遺物〉 出土していない。

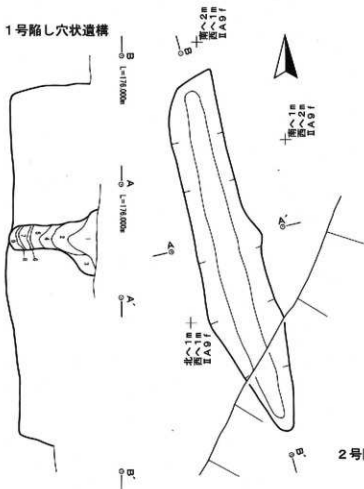
### (3) カマド状遺構

II A 8 f グリッド付近に焼土を含む不正楕円形プランが4基並列して検出された。いずれも東西方向が長軸で中心付近の幅が最大となり、西側には短い突出部を持つ。堆積土中には焼土・炭化物を多く含み、壁には被熱する箇所もみられる。以上のような形状、堆積状況が住居に付属するカマドに類似する。楕円形部分が燃焼部、西側の突出部が煙道部と考えられる。

#### 1号カマド状遺構 (第26図、写真図版18)

〈位置・検出状況・重複〉 II A 8 e グリッドに位置する。III層で焼土を含む黒褐色土の不正楕円形プランを検出した。P153と重複しこれを切っている。また北側に同様の遺構が3基並列(2～4号カマド状遺構)する。

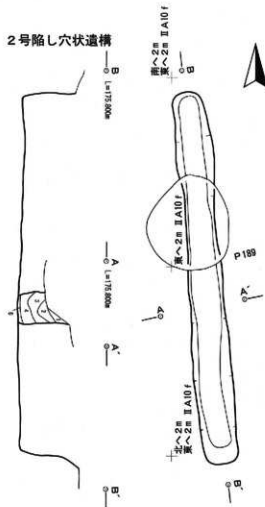
1号陥し穴状遺構



1号陥し穴状遺構 (A-A')

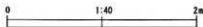
- 1 10YR2/1 黒色 しまりあり、粘性あり。地山ブロックを微量含む。
- 2 10YR3/1 黒褐色 しまりあり、粘性あり。地山ブロックを少し含む。
- 3 10YR4/4 褐色 しまりあり、粘性あり。黒褐色土を少し含む。
- 4 10YR3/4 暗褐色 しまりあり、粘性あり。地山ブロックを多く含む。
- 5 10YR6/6 明黄褐色 しまりあり、粘性あり。砂質土を少し含む。壁崩落土。
- 6 10YR3/2 黒褐色 しまりあり、粘性あり。地山ブロックを微量含む。
- 7 10YR4/4 褐色 しまりあり、粘性あり。砂質土を少し含む。壁崩落土。
- 8 10YR2/2 黒褐色 しまりあり、粘性あり。地山ブロックを少し含む。
- 9 10YR2/1 黒色 しまりあり、粘性あり。地山ブロックを微量含む。

2号陥し穴状遺構



2号陥し穴状遺構 (A-A')

- 1 10YR3/1 黒褐色 しまりあり、粘性あり。地山ブロック多い。
- 2 10YR4/2 灰黄褐色 しまりあり、粘性あり。地山ブロックを多く含む。
- 3 10YR5/1 褐灰色 砂質シルト しまりあり、粘性あり。壁崩落土か？
- 4 10YR3/1 黒褐色 しまりあり、粘性あり。地山ブロックを多く含む。
- 5 10YR2/1 黒色 しまりあり、粘性あり。地山ブロックを少し含む。



第25図 陥し穴状遺構

(規模・形状) 全長(東西) 1.54m、最大幅(南北) 0.76m、不正な楕円形である。主軸方向はN-85°-W。底面は丸みを帯び、遺構中心部が最も深く28cm、そこから長軸方向両端(焚1・煙道部)へ徐々に深さを減じていく浅皿状の断面形となる。短軸方向の壁は緩やかに外傾、またはオーバーハングして立ち上がる。

(堆積状況) 黒褐色土を主体とする。燃焼部底面に炭化物層(8層・樹種クリ)、壁際には焼土・焼土ブロック層(4~7層)が堆積し、その後これらを混入した黒褐色土が覆う。燃焼部及び煙道部の壁は被熱しており、焼土ブロック層はこれが崩落したものと考えられる。しかし5層のように被熱部分と崩落土を識別できるものと、はっきりしない層とにわかれる。住居のカマドの場合、通常底面が最も被熱し焼土が形成されるが、本遺構ではこれが確認できなかったが、壁の被熱の状況から遺構内で焼成が行われているようである。底面の焼土は掻き出されてしまったのではないかと考えられる。

(遺物) 近世陶磁が1点出土している。碗の底部で、19世紀で在地もしくは相馬産?の可能性のある(1:第34図、写真図版22)。

## 2号カマド状遺構(第26・27図、写真図版18)

(位置・検出状況・重複) II A 8 e~8 f グリッドに位置する。III層で検出し、両側に1号カマド状遺構、北側に3・4号カマド状遺構が近接している。P166・184と重複しこれらを切る。

(規模・形状) 全長2.18m、最大幅は0.83m、不正な長楕円形である。主軸方向はN-93°-W。燃焼部底面は丸みを帯び、焚口部やや浅くなり、煙道部は外傾して立ち上がる。壁はオーバーハングする。検出面からの深さは、最大30cm程度である。

(堆積状況) 黒褐色土を主体とし、焼土・焼土ブロック・炭化物層などの互層となる。燃焼部内で焼成が行われ焼土が形成・上位に炭化物層が残り(a)、これらが崩落したブロック層が堆積(b)、再び焼成(a)、と数度繰り返して行われたようである。いずれも、前回の焼成で形成された焼土層または崩落したブロック層の上面で再び焼成が行われているため、境界が漸移的で分層できないものもあった(16・3~5層)。しかし焼成面の下位に炭化物層ができることは考えられず、必ず上記のa→bの順に形成・堆積したものと考えていくと、焼成回数は最大4回で、①(aは壁のみ確認)→b20、②a18・19・17→b16下部、③a16上部→b9~15、④a3~5下部?→b3~5上部?・1・2となる。bの中には、aの崩落層でも周囲から流入した黒褐色土層(1層他)でもない、地山ブロックを多く含む層(2・10層)がある。これは4号カマド状遺構でも同様の層が確認されており、上部の覆い上や、消火の際に用いたなど人為的な堆積である可能性がある。炭化物の樹種を同定したところ、8層のものがクリであった。

(遺物) 小片のため同化していない。

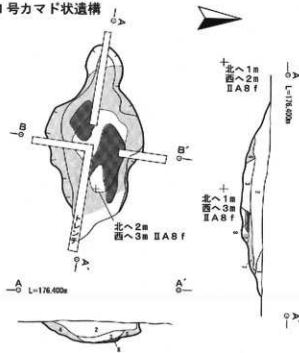
## 3号カマド状遺構(第28図、写真図版18・19)

(位置・検出状況・重複) II A 8 f グリッドに位置する。III層面で検出した。4号カマド状遺構と重複しこれに切られ、南側には2号カマド状遺構が近接する。またP176・177より新しい。

(規模・形状) 全長1.70m、最大幅は0.86m、不正楕円形である。主軸方向はN-86°-W。底面はやや丸みを帯び、燃焼部奥(西側)が最も深く、焚口は向かって徐々に浅くなる。焚口部分には両側に礫が置かれている。煙道部は一段高くなっており外傾して立ち上がる。両脇の壁はオーバーハングする。検出面からの深さは15cm程度である。



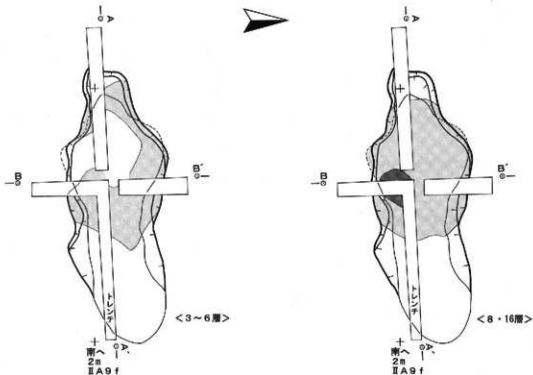
1号カマド状遺構



1号カマド状遺構 (A-A'・B-B')

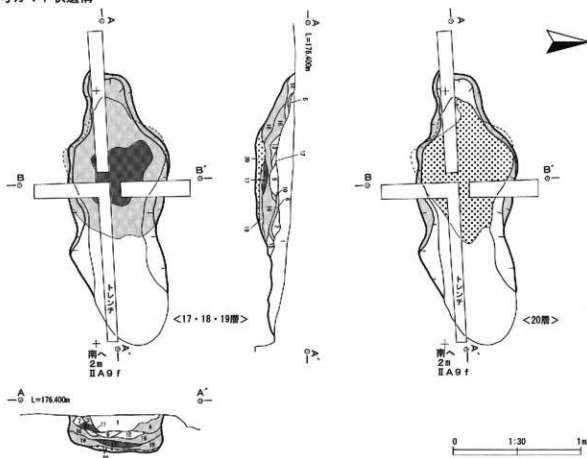
- 1 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり中、粘性中、地山ブロックが塊状にやや多く入る。
- 2 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり中、粘性中、炭、炭土ブロック (径~1cm) 微量。
- 3 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり中、粘性中、炭、焼土、地山ブロック (径~1.5cm) 少量。
- 4 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり中、粘性中、7.5YR5/8明褐色土上の炭土ブロック多量、炭微量、炭上ブロック壁被熱後剥落？
- 5 4層と似るが、壁際に1cmほど被熱している範囲残る。
- 6 4層に似る。
- 7 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり中、粘性中、7.5YR5/8明褐色土上の炭土ブロック大量、上部は層かいブロック (径~5mm)、下部、被熱している？上にも見える。分層可能か。
- 8 炭層
- 9 欠番
- 10 2層、地山ブロック微量。

2号カマド状遺構



第26図 カマド状遺構 (1)

## 2号カマド状遺構

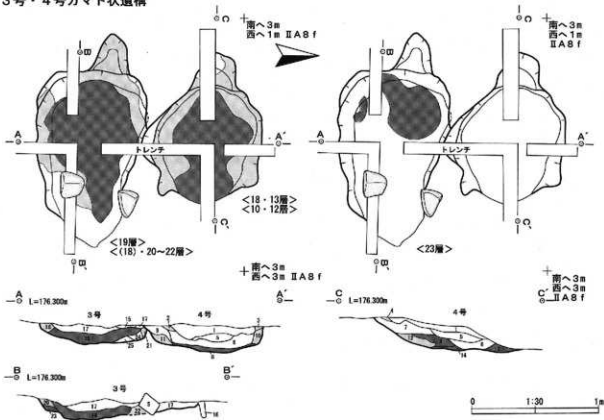


2号カマド状遺構 (A-A・B-B)

全体しまり、粘性中。シルト。

- 1 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり中。粘性中。3・4号カマド状の1層と似る。
- 2 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり中。粘性中。地山ブロックが多量に斑状に混じる。
- 3 5YR4/8 赤褐色 シルト しまり中。粘性中。焼土ブロック層（大きいブロックで入る）。10YR2/2黒褐色土を微量。被焼熟する？
- 4 3層に地山ブロック（大きい）を含む。
- 5 3層に似る。
- 6 5YR4/8 赤褐色 シルト しまり中。粘性中。焼土層。
- 7 1層に焼土ブロック微量。
- 8 炭層
- 9 1層に似る。
- 10 2層に似るが、地山ブロックが被焼熟して赤味あり。
- 11 10層に似る。
- 12 2層に似る。
- 13 1層に似る。
- 14 1層に似るが、焼土ブロック多い。
- 15 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり中。粘性中。焼土ブロック（径5cm）少量。
- 16 5YR4/8 赤褐色 シルト しまり中。粘性中。焼土ブロック層。10YR2/2黒褐色土少量。上面は被焼熟したように見える。被焼熟層崩壊したもの？
- 17 10YR2/2黒褐色シルトと焼土ブロック・炭の混土。ボヤーつと混じる。
- 18 7.5YR5/8 明褐色 シルト しまり中。粘性中。焼土層。
- 19 18層に似る。
- 20 炭・焼土ブロック層。

3号・4号カマド状遺構



3・4号カマド状遺構 (A-A'-C-C')

- 1 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり中。粘性中。
  - 2 7.5YR4/6 褐色 シルト しまり中。粘性中。焼土層(黄土、ブロックともすべてこの色)
  - 3 2層と同じ。
  - 4 2層と同じ。
  - 5 10Y12/2 黒褐色 シルト しまり中。粘性中。地山ブロックが斑状(5cm)に大量に入る。炭微量。
  - 6 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや弱い。粘性中。焼土ブロック、炭、地山ブロックが少量ずつ斑状に混じる(径~2cm)。壁際には焼土ブロック多くなる。
  - 7 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや弱い。粘性中。焼土ブロックが細かく(1cm)大量に入る。炭細かく微量。
  - 8 炭層。
  - 9 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり中。粘性中。上面に地山ブロックが斑状に混じる。
  - 10 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり中。粘性中。壁面被焼(厚さ1cm程度)。これが崩落した層。焼土ブロック大量。
  - 11 焼土層。
  - 12 焼土層。
  - 13 炭層。
  - 14 炭層。
  - 15 1層に似る。
  - 16 17層の根かく乱。
  - 17 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり中。粘性中。焼土ブロック、炭を細かく(径~5mm)全体に含む。やや多い。
  - 18 10層に似る。
  - 19 炭層。地山ブロックを少量含む。
  - 20 焼土層。
  - 21 焼土層。
  - 22 焼土層。
  - 23 炭層。
  - 24 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり中。粘性中。地山ブロック、炭多量。
  - 25 10Y12/2 黒褐色 シルト しまり中。粘性中。炭(径~1cm)多量。
- 1~14層4号カマド状遺構、15~25層4号カマド状遺構。

第28図 カマド状遺構 (3)

（堆積状況）2号カマド状遺構同様、焼成・炭化物（a）→崩落ブロック層（b）の順に堆積する。壁の一部と煙道底面に被熱の痕跡がみられる。焼成回数は2～3回で、①a 23?→b (23?)・24・25、②a (18壁際) 20→22・19→b (18)・15・17となる。18層はa bとも19層上位かbのみか判断できず、前者なら2回、後者なら3回の焼成が行われたと思われる。2号カマド状遺構との違いは23・19層の炭層下位には焼成面が認められず壁際のみが被熱する点である。炭層自体焼土ブロックを含んでおり、おそらく1号カマド状遺構同様、掻きだしなど人為的な作業が行われたと考えられる。炭化物の樹種を同定したところ、23層がナラ、19層がケヤキとヤマザクラであった。

（遺物）モモの種子が17層より出土する。焚口より出土した礎の石材鑑定を行ったところ、地元奥羽山脈土沢地方の安山岩（新生代新第三紀）であった。

#### 4号カマド状遺構（第28図、写真図版18・19）

（位置・検出状況・重複）II A 8 f グリッド付近に位置する。III層面で検出した。3号カマド状遺構と重複しこれを切る。

（規模・形状）全長1.22m、最大幅0.95m、円形に近い不正楕円形である。東側焚口部分は上位の盛土により削平されてしまっている。主軸方位は、3号カマド状遺構と同じくN-S<sup>7</sup>-W。底面はやや丸みを帯び、煙道部が外傾して立ち上がる。壁はオーバーハングする。検出面からの深さは20cm程度である。

（堆積状況）焚口から煙道の壁にかけて被熱、焼土層が複数確認できることから遺構内で焼成を数度繰り返したようである。しかし、3号カマド状遺構同様、炭化物層下位が被熱しないため、焼土層と炭化物層の関係を明確につかめなかった。また10～12層が上述のとおり焼上層と焼土ブロック層に明確に区別できなかったため、8・13・14の炭化物層が同一焼成時にものか、14と8・13の2回に分かれるか判断できなかった。いずれにせよ8・10～14層が1～2回目の焼成に伴い、2～4層がその次と考えられる。炭化物の樹種を同定したところ、8層がナラ、14層がアカマツであった。

（遺物）土器片が出土しているが小片のため図化していない。

#### (4) 溝 跡

##### 1号溝跡（第29図、写真図版19）

（位置・検出状況・重複）II A 11 e グリッドに位置する。地山面で検出した。P32と重複し、これより新しい。

（規模・形状）東西方向で直線状に伸び、東端に向かって底面標高が低くなる。全長（東西）4.45m、上幅は0.20～0.40m、下幅は0.15～0.30mである。検出面からの深さは5～10cm程度である。断面形は浅い皿状である。

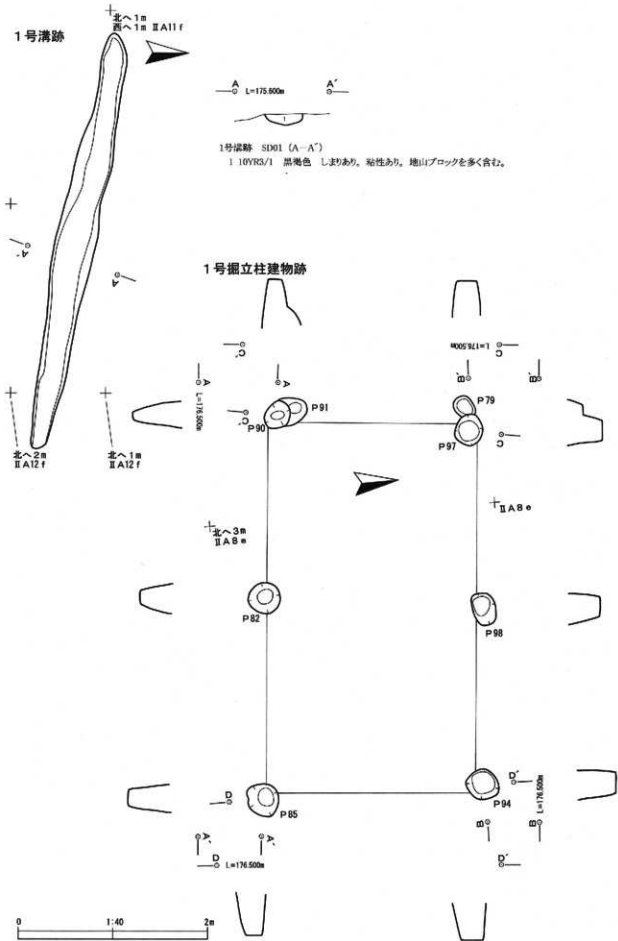
（堆積状況）地山ブロックを多く含む黒褐色土を主体とする。

（遺物）出土していない。

#### (5) 掘立柱建物跡・柱穴

##### 1号掘立柱建物跡（第29図、写真図版19）

（位置・検出状況・重複）II A 7 d・8 d グリッドに位置する。地山面で検出した。建物を構成する柱穴P90とP97がそれぞれP91、P79重複しており、本遺構のほうが新しいと判断したが、柱痕と掘方の可能性も考えられる。



第29図 1号溝跡・1号掘立柱建物跡

## 2 検出遺構と出土遺物

〈規模・柱間・方向〉東西2間、南北1間の掘立柱建物跡である。規模はそれぞれ3.9m、2.2mで、東西の柱間は1.9m。軸方向はN-85°-Wである。

〈柱穴〉P82・85・90・94・97・98の6個で構成される。円形で開口部径は30cm前後、南北に対応する柱穴の深さはほぼ等しい。東西方向は、両端が深く、中央が浅い。西側のほうがより深い。これは地形の傾斜に対応するものかもしれない。

〈堆積状況〉P85は褐色土、それ以外は黒褐色土を主体とする。P85・94・98には柱痕が確認された。P90とP97には柱痕が確認できなかったが、上記のようにこれら自体が柱痕で、P91・79が掘方の可能性も考えられる。

〈遺物〉出土していない。

### 2号掘立柱建物跡（第30・31図、写真図版20）

〈位置・検出状況・重複〉IIA9c・9f・10d・10eグリッドに位置する。地山面で検出した。P189が2号陥し穴と重複し、これより新しい。東西軸P187・188の並びで、東方向に8号土坑と同じ間尺で位置している。2号掘立柱建物跡を構成する柱穴に含まれる可能性も考えられるが、北側に対応する柱穴が確認できないため、8号土坑は別遺構として本遺構の記述から外した。

〈規模・方向・柱間〉東西1間、南北1間の掘立柱建物跡である。柱間はそれぞれ4.3mで、軸方向はN-69°-Wである。

〈柱穴〉P187~190の4個で構成される。各柱穴の規模は0.9~1.1m×0.7~1.0mの円形である。底面はほぼ平坦で、深さは検出面から40~55cm程度である。底面の標高はP188がわずかに高く、他はほぼ同じ高さである。

〈堆積状況〉P187は地山ブロックを含んだ褐色土、それ以外は地山ブロックを含んだ黒褐色土を主体とする。各柱穴は底面付近に褐色地山ブロックを多く含む層があり、中央付近が黒褐色土層となる。P187の1・2層の黒色土層は柱痕の可能性はあるが、他の柱穴では確認できなかった。

〈遺物〉出土していない。

### 柱穴群（第31~33・34図、写真図版19・22）

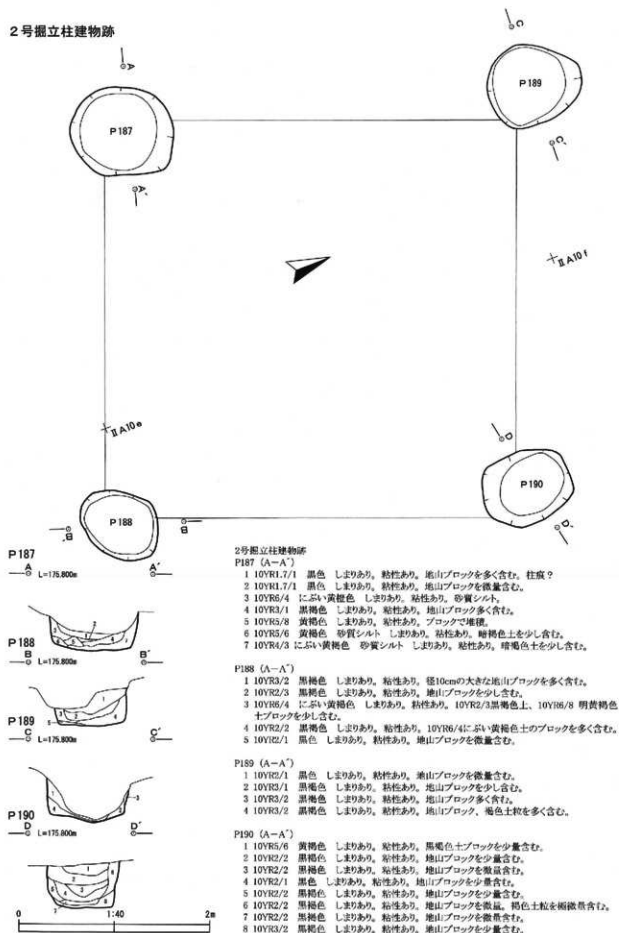
〈位置・検出状況・重複関係〉調査区内で柱穴を188個検出した。このうち建物構成する柱穴と判断したものは10個のみである。その他178個は、カマド状遺構周辺にやや集中が見られるものの調査区全体に広がり、湿地の落ち際へは密度が薄くなる。また、調査区西端、南東端は削平・攪乱がひどく遺構が消失している可能性もある。柱穴同士の新旧を確認できたものは少ないが、他の遺構とは、土坑より新しく、カマド状遺構よりも古い傾向にある。

〈規模・形状〉円形~楕円形である。直径は小さいもので10cm代から90cmを超えるものまで様々な規模があり、20~40cmがピークとなる。

〈埋土〉黒褐色土の掘方をもつものが大半を占め、柱痕が確認できたものは20個である。柱痕は掘方より黒味が強く、P13は空洞であった。

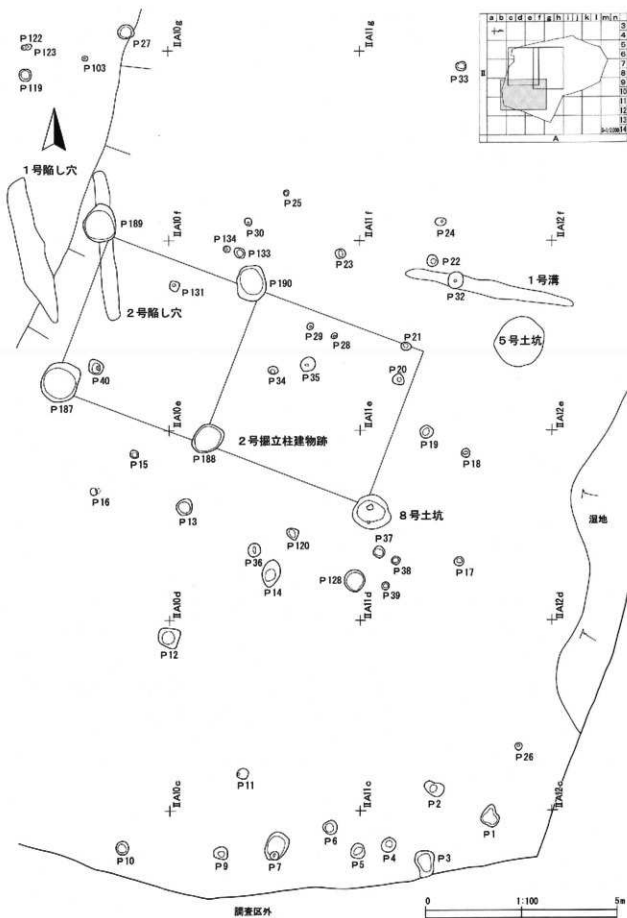
〈遺物〉P1・3・6・27・110から出土している。このうち図化したものはP27の2のみである。これ以外は縄文土器小片である（2：第34図、写真図版22）。

## 2号掘立柱建物跡



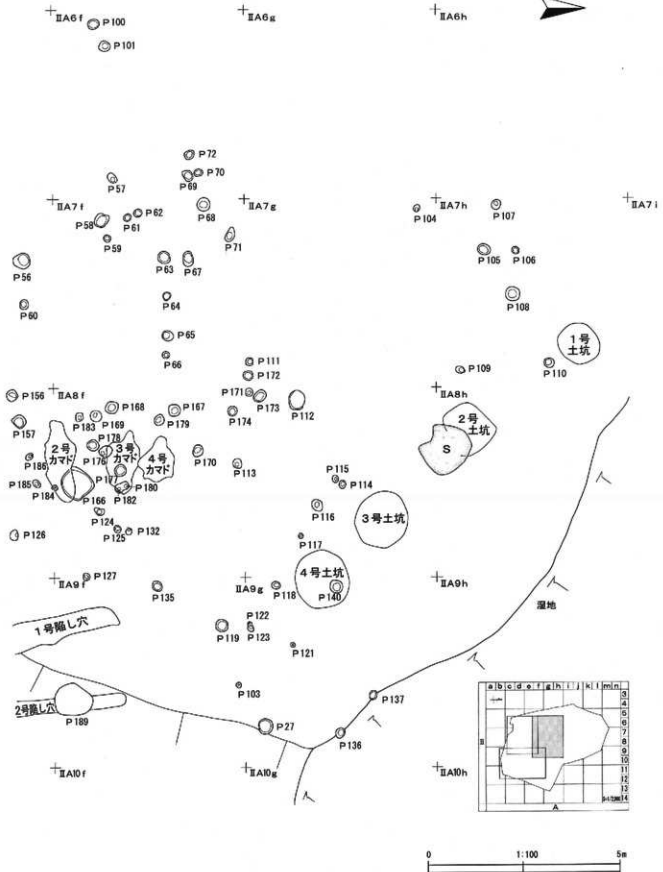
第30図 2号掘立柱建物跡

2 検出遺構と出土遺物

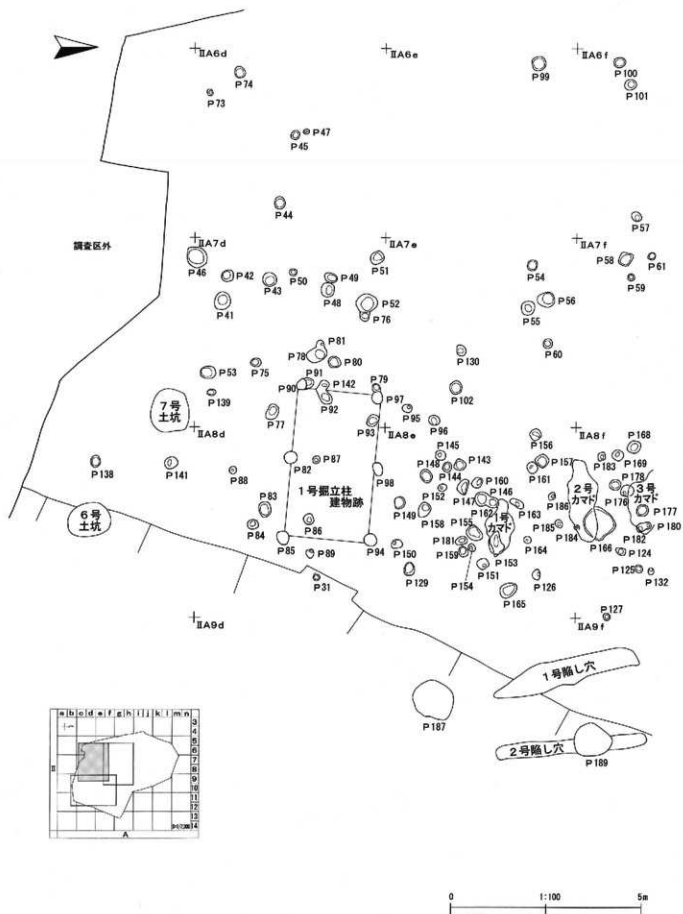


第31図 柱穴配置図 (1)





第32図 柱穴配置図(2)



第33図 柱穴配置図 (3)

第6表 柱六一覧(1)

番号	グロット	幅 (m)	高さ (m)	柱山頂部の 径 (m)	柱山頂部の 深さ (m)	柱の 径 (m)	土	柱山 傾	柱1:	柱 底	備 考
1	ⅡA11b	57×50	175.445	175.383	6	10Y R 1.7/1 黒色土		○			縄文土層片出土
2	ⅡA11c	53×36	175.485	175.395	9	10Y R 3/1 黒褐色土					
3	ⅡA11b	70×50	175.535	175.391	14	10Y R 3/1 黒褐色土		○			縄文土層片出土
4	ⅡA11b	41×38	175.566	175.467	9	10Y R 1.7/1 黒色土					
5	ⅡA10b	41×38	175.585	175.514	7	10Y R 3/1 黒褐色土		○			縄文土層片出土
6	ⅡA10b	39×38	175.590	175.474	12	10Y R 1.7/1 黒色土		○			
7	ⅡA10b	76×57	175.587	175.232	35	10Y R 3/1 黒褐色土		○			
8	欠番										
9	ⅡA10b	38×35	175.555	175.436	12	10Y R 3/1 黒褐色土		○			
10	ⅡA9b	38×36	175.587	175.418	17	10Y R 3/1 黒褐色土		○			
11	ⅡA10c	36×27	175.593	175.579	52	10Y R 1.7/1 黒色土					
12	ⅡA9c	56×53	175.540	175.378	16	10Y R 1.7/1 黒色土		○			
13	ⅡA10d	45×42	175.713	175.505	41	10Y R 3/1 黒褐色土		○		採掘	
14	ⅡA10d	70×46	175.664	175.406	36	10Y R 3/1 黒褐色土		○			
15	ⅡA9d	25×22	175.675	175.576	10	10Y R 3/1 黒褐色土		○			
16	ⅡA9d	20×20	175.739	175.560	40	10Y R 4/2 灰黄褐色土				10Y R 3/1 黒褐色土	
17	ⅡA11d	27×25	175.351	175.227	12	10Y R 1.7/1 黒色土					
18	ⅡA11d	24×23	175.327	175.239	9	10Y R 1.7/1 黒色土					
19	ⅡA11d	35×35	175.412	175.286	13	10Y R 4/2 灰黄褐色土		○			
20	ⅡA11e	31×29	175.556	175.270	29	10Y R 4/2 灰黄褐色土		○			10Y R 1.7/1 黒色土
21	ⅡA11e	27×21	175.520	175.360	16	10Y R 1.7/1 黒色土		○			
22	ⅡA11e	30×30	175.435	175.103	33	10Y R 1.7/1 黒色土		○			10Y R 1.7/1 黒色土
23	ⅡA10e	27×23	175.512	175.370	24	10Y R 4/2 灰黄褐色土		○			10Y R 1.7/1 黒色土
24	ⅡA11f	29×23	175.545	175.236	11	10Y R 3/1 黒褐色土		○			
25	ⅡA10f	16×15	175.497	175.388	11	10Y R 1.7/1 黒色土					
26	ⅡA11c	20×20	175.346	175.173	17	10Y R 1.7/1 黒色土					遺物出土
27	ⅡA9g	41×31	174.610	174.275	34	10Y R 1.7/1 黒色土					
28	ⅡA10e	16×15	175.530	175.402	13	10Y R 1.7/1 黒色土		○			
29	ⅡA10e	19×17	175.518	175.450	7	10Y R 3/1 黒褐色土		○			
30	ⅡA10f	22×19	175.325	175.447	8	10Y R 1.7/1 黒色土					
31	ⅡA8d	19×19	176.085	175.967	15	10Y R 1.7/1 黒色土		○			
32	ⅡA11e	45×46	175.590	175.210	15	10Y R 3/1 黒褐色土		○			1号溝より大きい
33	ⅡA11f	25×22	175.240	175.100	14	10Y R 2/1 褐色土					
34	ⅡA10e	26×21	175.471	175.409	7	10Y R 3/1 黒褐色土		○			
35	ⅡA10e	42×38	175.515	175.190	32	10Y R 1.7/1 黒色土					
36	ⅡA10d	37×34	175.467	175.310	16	10Y R 1.7/1 黒色土					
37	ⅡA11d	31×30	175.375	175.226	15	10Y R 1.7/1 黒色土					
38	ⅡA11d	23×23	175.376	175.225	15	10Y R 3/1 黒褐色土					
39	ⅡA11d	22×22	175.370	175.288	7	10Y R 4/2 灰黄褐色土					
40	ⅡA9c	42×41	175.470	175.065	41	10Y R 3/2 黒褐色土		○			
41	ⅡA7d	48×40	176.366	176.140	23	10Y R 3/1 黒褐色土		○			
42	ⅡA7d	31×30	176.350	176.006	34	10Y R 3/1 黒褐色土		○			
43	ⅡA7d	35×35	176.330	176.272	7	10Y R 3/1 黒褐色土		○			
44	ⅡA6d	33×28	176.349	176.246	10	10Y R 3/1 黒褐色土		○			
45	ⅡA6d	25×23	176.340	176.314	3	10Y R 3/2 黒褐色土					
46	ⅡA7e	61×51	176.305	176.157	15	10Y R 3/1 黒褐色土		○			
47	ⅡA6d	16×15	176.317	176.312	3	10Y R 3/2 黒褐色土					
48	ⅡA7d	39×35	176.328	176.080	25	10Y R 3/1 黒褐色土		○			
49	ⅡA7d	34×24	176.323	176.221	10	10Y R 3/1 黒褐色土		○			
50	ⅡA7d	29×20	176.335	176.256	4	10Y R 3/1 黒褐色土		○			
51	ⅡA7d	38×32	176.309	176.139	17	10Y R 2/1 黒色土		○			
52	ⅡA7d	56×51	176.397	176.025	28	10Y R 3/1 黒褐色土		○			P76と重複し、新しい
53	ⅡA7d	49×32	176.350	175.985	37	10Y R 3/1 黒褐色土		○			10Y R 1.7/1 黒色土

## 2 横山遺構と出土遺物

第6表 柱穴一覧(2)

番号	グリッド	間 隔 (cm)	柱間距離 (cm)	柱径 (cm)	穴径 (cm) 内径・外径	埋 土	地山	炭	土	柱 痕	備 考
54	IIA7e	29×27	176.315	176.242	7	10YR 3/1 黒褐色土	○				
55	IIA7e	39×36	176.256	175.816	44	10YR 3/2 黒褐色土	○			10YR1.7/1 黒色土	
56	IIA7e	44×40	176.268	175.966	30	10YR 3/1 黒褐色土	○				
57	IIA6f	27×22	176.308	176.231	8	10YR 3/1 黒褐色土	○				
58	IIA7f	40×38	176.297	176.106	19	10YR 3/1 黒褐色土	○				
59	IIA7f	18×18	176.279	176.203	8	10YR 3/1 黒褐色土	○				
60	IIA7e	25×24	176.276	176.168	11	10YR 3/1 黒褐色土	○				
61	IIA7f	21×19	176.275	176.206	7	10YR 2/1 黒色土	○				
62	IIA7f	23×21	176.275	176.135	14	10YR 3/1 黒褐色土	○				
63	IIA7f	34×32	176.265	175.735	53	10YR 3/2 黒褐色土	○			10YR1.7/1 黒色土	
64	IIA7f	23×19	176.236	176.164	5	10YR 3/1 黒褐色土	○				
65	IIA7f	29×27	176.175	175.733	44	10YR 4/6 褐色土	○			10YR1.7/1 黒色土	
66	IIA7f	19×17	176.172	176.108	6	10YR 3/1 黒褐色土	○				
67	IIA7f	41×38	176.279	176.000	28	10YR 3/1 黒褐色土	○				
68	IIA7f	35×35	176.298	175.965	33	10YR 4/6 褐色土	○			10YR1.7/1 黒色土	
69	IIA6f	33×36	176.290	176.180	11	10YR 3/1 黒褐色土	○				
70	IIA6f	23×20	176.290	176.191	10	10YR 1.7/1 黒色土	○				
71	IIA7f	40×22	176.200	176.106	19	10YR 3/1 黒褐色土	○				
72	IIA6f	28×23	176.260	176.178	8	10YR 2/1 黒色土	○				
73	IIA6d	18×16	176.326	176.176	15	10YR 2/1 黒色土	○				
74	IIA6d	30×26	176.324	176.102	22	10YR 3/1 黒褐色土	○				
75	IIA7d	28×22	176.346	176.145	20	10YR 2/1 黒色土	○				
76	IIA7d	30×26	176.300	176.856	44	10YR 3/2 黒褐色土	○				P82と重複し、古い
77	IIA7	42×31	176.319	176.136	18	10YR 2/1 黒色土	○				
78	IIA7d	54×39	176.333	176.135	20	10YR 2/1 黒色土	○				P81と重複し、新しい
79	IIA7d	25×21	176.196	176.030	17	10YR 2/1 黒色土	○				P97と重複し、古い
80	IIA7d	33×32	176.316	176.251	6	10YR 3/1 黒褐色土	○				
81	IIA7d	28×(24)	176.348	176.220	13	10YR 3/1 黒褐色土	○				P78と重複し、古い
82	IIA8d	35×33	176.240	176.887	35	10YR 3/1 黒褐色土	○				1号竪立柱礎物跡
83	IIA8d	41×32	176.238	176.016	22	10YR 3/1 黒褐色土	○				
84	IIA8d	30×24	176.227	176.028	20	10YR 2/2 黒褐色土	○				
85	IIA8d	38×35	176.215	175.769	46	10YR 4/6 褐色土	○			10YR1.7/1 黒色土	1号竪立柱礎物跡
86	IIA8d	30×29	176.181	176.046	17	10YR 3/1 黒褐色土	○				
87	IIA8d	22×21	176.240	176.131	11	10YR 3/1 黒褐色土	○				
88	IIA8d	21×19	176.272	176.976	30	10YR 3/2 黒褐色土	○				
89	IIA8d	23×21	176.162	176.008	15	10YR 3/2 黒褐色土	○				
90	IIA7d	30×28	176.328	175.810	52	10YR 3/1 黒褐色土	○				1号竪立柱礎物跡 P91と重複し、新しい
91	IIA7d	40×(20)	176.292	176.102	19	10YR 3/2 黒褐色土	○				P90と重複し、古い
92	IIA7d	(30)×30	176.259	176.069	20	10YR 3/2 黒褐色土	○				P142と重複するが、 新田4期
93	IIA7d	34×28	176.217	176.997	22	10YR 3/1 黒褐色土	○				
94	IIA8d	35×32	176.101	175.695	41	10YR 3/2 黒褐色土	○			10YR1.7/1 黒色土	1号竪立柱礎物跡
95	IIA7e	27×22	176.248	176.698	15	10YR 3/1 黒褐色土	○	○			
96	IIA7e	29×25	176.232	176.034	20	10YR 3/1 黒褐色土	○			10YR1.7/1 黒色土	
97	IIA7d	34×30	176.215	176.827	39	10YR 3/2 黒褐色土	○				1号竪立柱礎物跡 P79と重複し、新しい
98	IIA8d	35×28	176.196	175.860	34	10YR 3/2 黒褐色土	○			10YR1.7/1 黒色土	SB01のPit
99	IIA6e	40×38	176.256	175.860	19	10YR 3/1 黒褐色土	○				
100	IIA6f	30×27	176.215	176.125	9	10YR 3/1 黒褐色土	○				
101	IIA6f	31×29	176.218	176.100	12	10YR 3/1 黒褐色土	○				
102	IIA7e	35×32	176.259	176.067	23	10YR 3/1 黒褐色土	○			10YR1.7/1 黒色土	
103	IIA9f	15×13	176.126	176.067	6	10YR 2/1 黒色土	○				
104	IIA7g	18×17	176.126	176.074	5	10YR 3/1 黒褐色土	○				

第6表 柱穴一覧(3)

番号	グリッド	径 横 (cm)	掘出部高 (m)	底面径長 (m)	深さ(cm) 掘部-1部	地 じ	堆山	灰	純土	柱 尻	備 考
103	II A 7 h	35×29	176.655	175.992	6	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
106	II A 7 h	20×20	176.619	175.965	11	10Y R 2/1 黒色土	○				
107	II A 7 h	25×25	176.635	175.878	16	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
108	II A 7 h	39×38	175.993	175.869	12	10Y R 3/1 黒褐色土	○				10Y R 1.7/1 黒色土
109	II A 7 h	21×19	176.645	175.920	13	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
110	II A 7 h	28×25	175.917	175.701	22	10Y R 3/1 黒褐色土	○				遺物出土
111	II A 7 e	21×21	176.116	176.012	10	10Y R 2/1 黒色土					10Y R 3/1 黒褐色土
112	II A 8 g	53×42	175.941	175.849	9	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
113	II A 8 f	25×22	175.894	175.678	13	10Y R 2/1 黒色土					
114	II A 8 g	21×20	176.034	175.900	13	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
115	II A 8 g	20×20	176.030	175.909	12	10Y R 2/1 黒色土					
116	II A 8 k	34×27	175.965	175.753	23	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
117	II A 8 g	14×12	175.928	175.804	12	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
118	II A 9 g	24×21	175.800	175.697	10	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
119	II A 9 f	34×33	175.660	175.498	17	10Y R 2/1 黒色土					
120	II A 10 d	33×28	175.377	175.284	9	10Y R 3/1 黒褐色土					10Y R 1.7/1 黒色土
121	II A 9 g	14×12	175.798	175.730	7	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
122	II A 9 g	12×12	175.729	175.700	3	10Y R 3/1 黒褐色土	○				P123と重複するが、 新山不明
123	II A 9 g	17×16	175.730	175.590	14	10Y R 3/1 黒褐色土	○				P122と重複するが、 新山不明
124	II A 8 f	30×22	175.941	175.742	23	10Y R 3/1 黒褐色土	○				10Y R 1.7/1 黒色土
125	II A 8 f	23×19	175.856	175.634	21	10Y R 3/2 黒褐色土					
126	II A 8 e	28×22	175.895	176.645	25	10Y R 2/1 黒色土					
127	II A 8 f	20×20	175.801	175.690	11	10Y R 3/1 黒褐色土					
128	II A 10 d	57×57	175.366	175.137	23	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
129	II A 8 e	35×28	176.064	175.958	11	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
130	II A 7 e	20×26	176.299	176.093	21	10Y R 3/2 黒褐色土	○				10Y R 1.7/1 黒色土
131	II A 10 e	31×28	175.485	175.356	13	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
132	II A 8 f	17×17	175.806	175.555	25	10Y R 3/1 黒褐色土					
133	II A 10 e	32×26	175.493	175.301	19	10Y R 3/1 黒褐色土	○				径 5 cm の線が少し出 る。
134	II A 10 e	17×17	175.556	175.405	15	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
135	II A 9 f	29×24	175.666	175.550	12	10Y R 3/2 黒褐色土					
136	II A 9 g	29×23	175.510	175.240	27	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
137	II A 9 g	25×20	175.490	175.380	11	10Y R 3/1 黒褐色土					
138	II A 8 e	32×26	176.368	175.914	39	10Y R 3/1 黒褐色土	○				10Y R 1.7/1 黒色土
139	II A 7 d	21×20	176.360	176.318	4	10Y R 2/1 黒色土					
140	II A 9 e	37×33	175.605	175.330	27	10Y R 2/1 黒色土					4号土坑と重複し、 新しい。
141	II A 8 e	34×33	176.275	175.942	33	10Y R 3/1 黒褐色土	○				10Y R 1.7/1 黒色土
142	II A 7 d	(32)×20	176.296	176.121	17	10Y R 3/1 黒褐色土	○				P92と重複するが、 新山不明
143	II A 8 e	32×31	176.158	175.802	36	10Y R 3/1 黒褐色土	○				10Y R 1.7/1 黒色土
144	II A 8 e	29×23	176.140	176.051	9	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
145	II A 8 e	28×27	176.178	176.974	20	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
146	II A 8 e	33×31	176.058	175.971	9	10Y R 3/2 黒褐色土					P162と重複するが、 新山不明
147	II A 8 e	49×27	176.127	175.980	16	10Y R 3/1 黒褐色土					
148	II A 8 e	35×28	176.106	176.025	8	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
149	II A 8 e	31×27	176.076	176.979	10	10Y R 3/1 黒色土	○				
150	II A 8 e	30×23	176.101	176.668	43	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
151	II A 8 e	32×29	176.095	175.839	17	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
152	II A 8 e	23×20	176.098	175.930	17	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
153	II A 8 e	60×39	175.993	175.695	30	10Y R 2/1 黒色土					1号カマドと重複、 古い

第6表 柱穴一覧(4)

番号	グリッド	縦横 (cm)	検出深さ (m)	表面積 (m <sup>2</sup> )	深さ (cm)	土質	地山	炭土	柱	遺	備考
154	IIA8c	21×21	176.015	175.926	9	10Y R 3/2 黒褐色土					
155	IIA8c	54×35	176.062	175.911	9	10Y R 3/2 黒褐色土					
156	IIA8e	30×30	176.262	175.976	29	10Y R 3/1 黒褐色土	○	○			
157	IIA8c	34×32	176.157	175.688	17	10Y R 3/2 黒褐色土	○	○			
158	IIA8e	40×31	176.070	175.685	19	10Y R 3/2 黒褐色土					
159	IIA8e	29×25	176.001	175.892	14	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
160	IIA8c	30×34	176.139	176.068	7	10Y R 3/1 黒褐色土					
161	IIA8e	31×30	176.119	175.945	17	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
162	IIA8e	40×37	176.085	175.973	11	10Y R 3/1 黒褐色土	○				P148と重複するが、 新山不明
163	IIA8c	40×20	176.032	175.930	10	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
164	IIA8e	21×19	175.972	175.872	10	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
165	IIA8c	49×37	175.937	175.800	14	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
166	IIA8f	90×87	175.997	175.866	11	10Y R 2/1 黒色土	○				2号カマドと重複し、 古い
167	IIA8f	32×32	175.994	175.711	28	10Y R 2/1 黒色土	○	○			
168	IIA8e	38×33	176.065	175.989	8	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
169	IIA8f	28×28	176.096	175.714	38	10Y R 3/1 黒褐色土	○	○			遺物出土
170	IIA8e	33×29	175.886	175.775	11	10Y R 3/1 黒褐色土					
171	IIA8g	20×20	175.931	175.542	9	10Y R 2/2 黒褐色土					
172	IIA7g	27×26	175.976	175.878	10	10Y R 2/1 黒色土	○				
173	IIA8g	35×29	175.916	176.796	12	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
174	IIA8f	26×26	175.914	175.812	10	10Y R 3/2 黒褐色土					
175	欠番	—	—	—	—	—					
176	IIA8f	33×30	175.990	176.825	17	10Y R 2/3 黒褐色土	○				3号カマドと重複し、 古い
177	IIA8f	31×30	175.928	175.873	6	10Y R 3/1 黒褐色土	○				3号カマドと重複し、 古い
178	IIA8f	30×30	176.007	175.894	12	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
179	IIA8f	28×25	175.987	175.900	9	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
180	IIA8f	22×20	175.892	175.847	4	10Y R 3/1 黒褐色土	○				P182と重複するが、 新山不明
181	IIA8e	34×21	176.015	176.850	16	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
182	IIA8f	25×25	175.902	176.801	10	10Y R 3/2 黒褐色土	○				P180と重複するが、 新山不明
183	IIA8f	21×19	176.158	175.927	23	10Y R 3/1 黒褐色土	○				
184	IIA8f	15×14	176.014	176.855	16	10Y R 3/1 黒褐色土	○				2号カマドと重複し、 古い
185	IIA8e	23×18	176.009	175.818	19	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
186	IIA8e	21×18	176.040	175.885	16	10Y R 3/2 黒褐色土	○				
187	IIA9e	108×93	—	—	41	新山あり					2号窯の柱礎跡
188	IIA10d	80×71	—	—	40	新山あり					2号窯立柱礎跡
189	IIA9f	100×88	—	—	51	新山あり					2号窯の柱礎跡
190	IIA10e	97×82	—	—	48	新山あり					2号窯立柱礎跡

## (6) 出土遺物・湿地 (第34・35図・写真図版21~23)

出土土器は4342.2g、1の陶磁器を除きすべて縄文土器(主に後~晩期)である。石器は石鏃1点、石核2点、不定形石器7点、剥片10片(47.6g)が出土した。また、土製耳栓、石剣も1点ずつみられる。出土遺物の大半は、湿地腐植層(基本土層c層)に含まれていたもので、特にIIA8j~9jグリッド付近に集中する。土器は、器形の復元が可能な個体は少なく大半が破片資料で、斜面上部より湿地内に流れ込んだものと考えられる。

## 3 ま と め

今回の調査では、土坑8基、陥し穴状遺構2基、カマド状遺構4基、溝跡1条、掘立柱建物跡2棟、柱穴178個検出された。

土坑はすべて円形である。1~5号土坑は開口部径1.10~1.52m、底面が平坦で壁は直立して立ち上がる。底面のほぼ中央に、小穴を持つ。壁際に地山崩落上、中心部に黒色土と、一様な堆積状況がみられる。これらは、湿地に落ち際に沿って5基並んで検出された。覆土中に縄文土器片および剥片石器をわずかに含むのみであるが、その形状から縄文時代に属すると思われる。詳細な時期は不明である。6・7号土坑は、開口部径1.15m前後、底面が平坦で壁は外傾して立ち上がる。遺構の形状、覆土の堆積状況が1~5号土坑とは異なる。出土遺物もなく時期は不明である。8号土坑は、底面付近まで削平を受ける。形状は6・7号土坑に似るが、その位置から、2号掘立柱建物跡の一部の可能性がある。

陥し穴状遺構は、溝状で2基ほぼ平行に並んで検出された。

カマド状遺構も、4基並ぶ。遺構内では焼土層、炭化物層が重なっており、焼成が繰り返し行われていたものと考えられる。出土遺物から近世と判断した。

溝跡は、整地の段差、道路などに直交するため、出土遺物はないが、比較的新しい可能性がある。

柱穴は、南側に多く検出された。これらの柱穴から掘立柱建物跡2棟を確認した。建物跡・柱穴ともに時期は不明であるが、他遺構と重複する柱穴の新旧関係は縄文時代の上坑・陥し穴状遺構より新しく、カマド状遺構より古い。

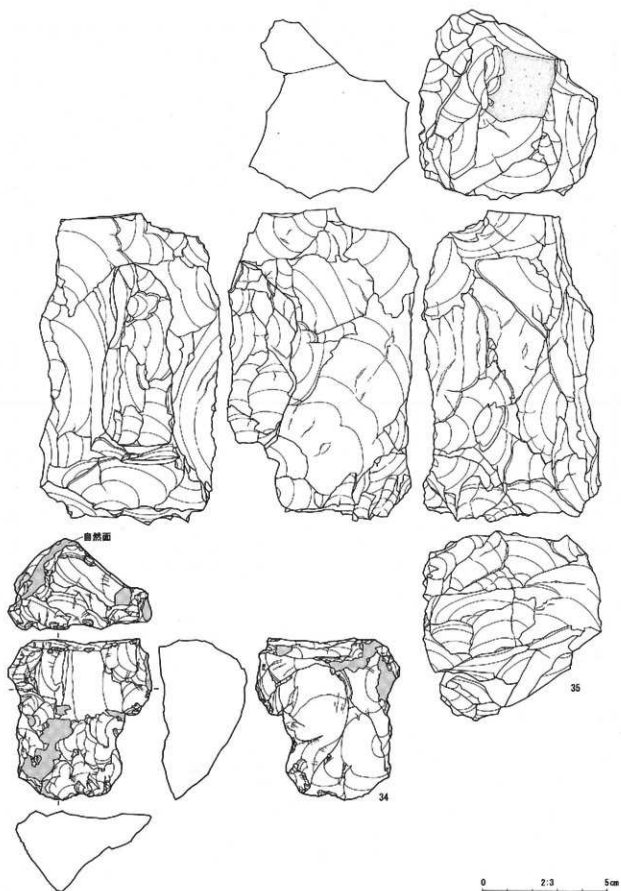
今回の調査では、調査区北側と東側に湿地が広がり、この落ち際に沿って縄文時代の土坑・陥し穴状遺構が並ぶ。また、調査区中央付近ではカマド状遺構・掘立柱建物跡と柱穴群が確認され、近世以降の生活の場と考えられる。

湿地には、周囲から流れ込んだと思われる縄文時代後期後葉~晩期初頭の上器片が湿地底面に堆積しており、今回の調査では確認できなかったものの、周辺に該期の遺構の存在が想定される。



第34圖 出土遺物(1)





第35図 出土遺物 (2)

第7表 出土遺物一覧(1)

(土器・土製品)

番号	遺構名	位置・層位	器種	部位	口径 (cm)	胴高 (cm)	底径 (cm)	文様	写版	写版 位置	図番	図番号
1	1号カマド状	焼付面	赤	底部	-	(1.9)	4.0	近世陶磁・19c 在産?	34	22	1	1
2	p27	上部	-	口縁	-	-	-	-	34	22	2	2
3	IIA8j	c層	-	胴部	-	-	-	-	34	22	10	10
4	IIA8j	c層	-	胴部	-	-	-	-	34	22	11	11
5	IIA8j	c層	-	口縁	-	-	-	-	34	22	9	9
6	IIA9j	c層	-	注口	注口部	(3.9)	-	沈線	34	22	12	12
7	IIA9j	c層	鉢	底部	-	(2.4)	h.8	縄文LR線	34	22	19	19
8	IIA9j	c層	鉢	底部	-	(2.2)	5.0	ナゲ	34	22	13	13
9	IIA9j	c層	-	口縁	-	-	-	-	34	22	17	17
10	IIA9j	c層	-	口縁	-	-	-	-	34	22	15	15
11	IIA9j	c層	-	口縁	-	-	-	-	34	22	21	21
12	IIA9j	c層	-	口縁	-	-	-	-	34	22	20	20
13	IIA9j	c層	-	口縁	-	-	-	-	34	22	18	18
14	IIA9j	c層	-	口縁	-	-	-	-	34	22	23	23
15	IIA9j	c層	-	口縁	-	-	-	-	34	22	22	22
16	IIA9j	c層	-	口縁	-	-	-	-	34	22	16	16
17	IIA9j	c層	-	口縁	-	-	-	-	34	22	25	25
18	IIA9j	c層	-	口縁	-	-	-	-	34	22	24	24
19	埴地部	c層	鉢	底部	-	(1.7)	(6.0)	ミガキ?・ナゲ	34	22	4	4
20	埴地部	c層	-	口縁	-	-	-	縄文LR線	34	22	3	3
21	埴地部	位置・層位	鉢	底部	-	(6.2)	(1.9)	縄文LR線・沈線	34	22	5	5
22	埴地部	位置・層位	-	胴部	-	-	-	-	34	22	7	7
23	埴地部	位置・層位	-	胴部	-	-	-	-	34	22	6	6
24	IIA8e	皿層	鉢	底部	-	(2.5)	7.4	-	34	22	26	26
25	IIA8e	皿層	-	口縁	-	-	-	-	34	22	27	27
26	IIA8e	皿層	-	口縁	-	-	-	-	34	22	28	28
27	IIA8e	皿層	-	胴部	-	-	-	-	34	22	8	8
28	IIA8e・8f	2号カマド状下・皿層	小形鉢?	底部	-	(1.6)	2.4	-	34	22	30	30
29	IIA10j	皿層	-	胴部	-	-	-	-	34	22	29	29
30	IIA9j	c層	土製品	-	(2.4)	(2.4)	-	-	34	22	14	14

第7表 出土遺物一覧(2)

(石器・石製品)

番号	遺構名	位置・層位	種別	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石質・備考	図版	写真図版	位置号
31	ⅡA9j	c層	石製品	石剣	(5.4)	(3.5)	(1.1)	30.6	粘板岩(北上山麓・占生層)	34	22	5
32	3号土坑	底上層より上	剥片石器	石鏃	2.4	1.5	0.5	1.0	頁岩(奥羽山脈?・新生代新第三紀)	34	22	1
33	1号掘し穴	上部	剥片石器	不定形	(4.7)	3.3	0.85	10.9	頁岩(奥羽山脈?・新生代新第三紀)	34	22	2
34	ⅡA8f	Ⅱ層	剥片石器	石鏃	7.3	12.8	7.4	700.3	玉子岩(奥羽山脈粘板岩・土佐地方・新生代新第三紀)	35	22	4
35	掘地	底面	剥片石器	石鏃	6.4	5.7	3.6	114.7	珉質頁岩(奥羽山脈・新生代新第三紀)	35	23	3
36	1号掘し穴	一括	剥片石器	不定形	2	2.4	0.8	2.1	頁岩(奥羽山脈?・新生代新第三紀)	—	23	6
37	ⅡA9j	c層	剥片石器	不定形	3	2.9	0.9	5.4	頁岩(奥羽山脈?・新生代新第三紀)	—	23	7
38	ⅡA9j	c層	剥片石器	不定形	5	4.7	1.3	15.0	頁岩(奥羽山脈?・新生代新第三紀)	—	23	8
39	ⅡA9j	c層	剥片石器	不定形	(2.9)	1.7	0.5	2.0	頁岩(奥羽山脈?・新生代新第三紀)	—	23	9
40	掘地	c層	剥片石器	不定形	4.9	3.2	1.7	20.6	頁岩(奥羽山脈?・新生代新第三紀)	—	23	10
41	掘地	底面	剥片石器	不定形	5.9	2.6	1.5	15.5	頁岩(奥羽山脈?・新生代新第三紀)	—	23	11
42	ⅡA9j	c層	剥片	—	—	—	—	8.1	頁岩(奥羽山脈?・新生代新第三紀)・2片	—	—	13
43	掘地	c層	剥片	—	—	—	—	23.0	頁岩(奥羽山脈?・新生代新第三紀)	—	—	14
44	掘地	c層	剥片	—	—	—	—	11.0	珉質頁岩(奥羽山脈・新生代新第三紀)・4片	—	—	15
45	ⅡA8c	Ⅱ層	剥片	—	—	—	—	1.5	頁岩(奥羽山脈?・新生代新第三紀)	—	—	12
46	調査区	一括	剥片	—	—	—	—	4.0	頁岩(奥羽山脈?・新生代新第三紀)・2片	—	—	16

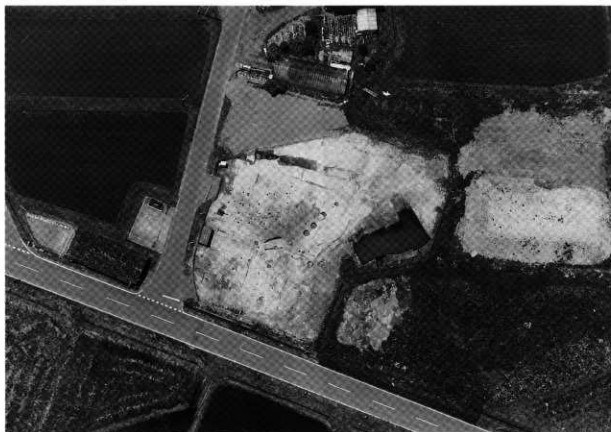
(種子)

番号	遺構名	位置・層位	種別	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考	図版	写真図版	位置号
47	3号分つド状	17層	種子	オモミ	—	—	—	0.6	1/2	—	—	1
48	ⅡA9j	c層	種子	トチ(幼花)	—	—	—	0.1	1/2	—	—	2
49	ⅡA9j	c層	種子	クルミ	—	—	—	2.2	1個体	—	—	3
50	ⅡA9j	c層	種子	クルミ	—	—	—	3.6	1個体	—	27	4
51	ⅡA9k	c層	種子	トチ	—	—	—	2.0	1/2(種別あり)	—	22	5
52	掘地部	底面	種子	オモミ	—	—	—	0.8	一部欠損	—	22	6
53	掘地部	c層	種子	クルミ	—	—	—	3.0	1個体	—	—	7



倉沢 3 区Ⅱ 写真図版





調査区全景（上方が西）



調査前（南から）



試掘（東から）



検出（西から）



基本土層（南から）



1号土坑全景（南から）



同左断面（北から）



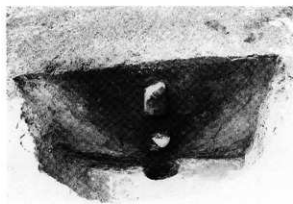
2号土坑全景（南西から）



同左断面（南西から）



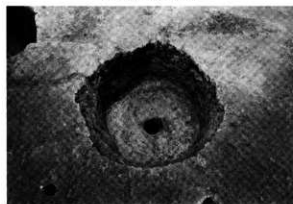
3号土坑全景（南から）



同左断面（北東から）

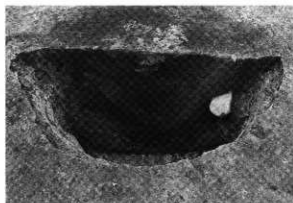


同上焼土検出（北東から）



4号土坑全景（南から）

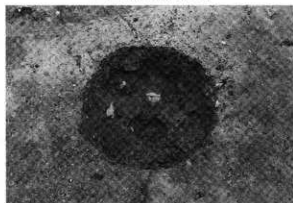




4号土坑断面 (南から)



同左焼土検出 (南から)



5号土坑全景 (南から)



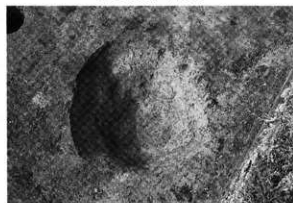
同左断面 (南西から)



6号土坑全景 (南から)



同左断面 (南から)



7号土坑全景 (南から)



同左断面 (北西から)



8号土坑全景（南から）



同左断面（南から）



1号陥し穴全景（南から）



2号陥し穴全景（南から）



同上断面（南から）



同上断面（南から）

写真図版17 土坑(3)・陥し穴状遺構



2～4号カマド状遺構全景（南東から）



1号カマド状全景（東から）



同左断面（南東から）



2号カマド状全景（東から）



同左断面（東から）

写真図版18 カマド状遺構（1）



3号カマド状全景（東から）



4号カマド状全景（東から）



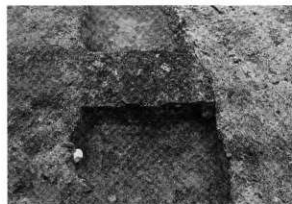
同上焼土検出（東から）



3・4号カマド状断面（東から）



1号溝跡全景（東から）



同左断面（西から）



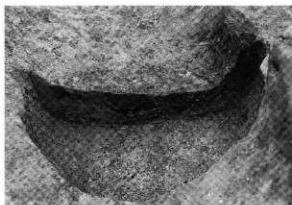
柱穴群検出（南東部・北西から）



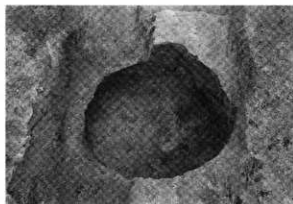
1号掘立柱建物跡全景



P187全景 (東から)



同左断面 (南から)



P188全景 (西から)



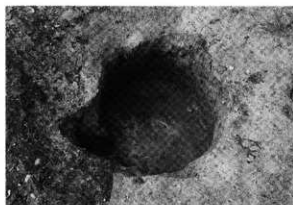
同左断面 (西から)



P189全景 (東から)



同左断面 (南から)



P190全景 (南から)



同左断面 (南から)



遺物出土状況（ⅡA8～9j付近・南から）



同上透景（西から）



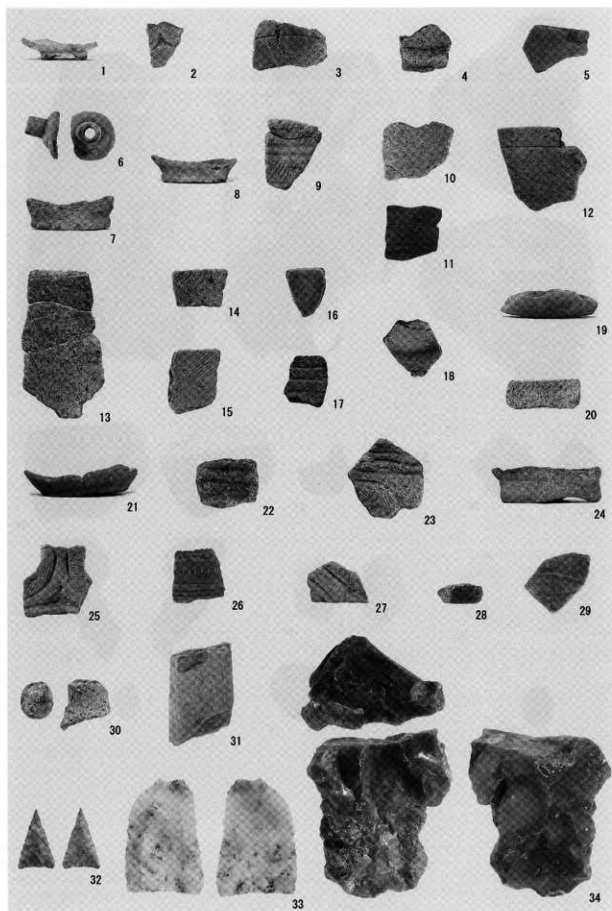
同上作業風景（西から）



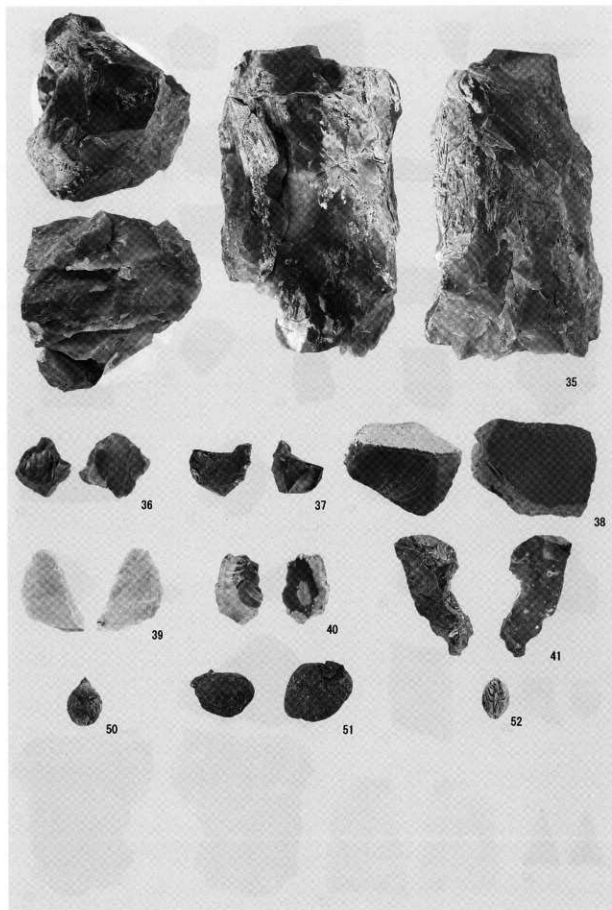
断面（ⅡA10g～10h付近・南西から）



断面（ⅡA12o付近・北西から）



写真図版22 出土遺物 (1)



写真図版22 出土遺物 (2)



## 報告書抄録

ふりがな	くらさわさんくⅠ・Ⅱいせきはつくつちようさほうこくしょ								
書名	倉沢Ⅲ区Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書								
副書名	東北横断自動車道釜石秋田線新直轄事業関連遺跡発掘調査								
巻次									
シリーズ名	岩手県文化振興事業関係文化財調査報告書								
シリーズ番号	第526集								
編著者名	中村絵美・太田代一彦								
編集機関	(財)岩手県文化振興事業関係文化財センター								
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下坂岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001								
発行年月日	2009年2月5日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
倉沢Ⅲ区Ⅰ遺跡	岩手県花巻市 東和町倉沢Ⅲ 区89ほか	032051	NE49-2021	39度 19分 58秒	141度 15分 1秒	2007.05.08 ～ 2007.06.15	2,523㎡	東北横断自動車 道釜石秋田線新 直轄事業関連遺 跡発掘調査	
倉沢Ⅲ区Ⅱ遺跡	岩手県花巻市 東和町倉沢Ⅲ 区175ほか		NE49-2041	39度 19分 48秒	141度 15分 7秒	2007.04.09 ～ 2007.05.31	2,212㎡		
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
倉沢Ⅲ区Ⅰ遺跡		平安時代	竪穴住居	1棟	土器（土師器、須恵器）、陶磁器、土製品				
		近世以降	溝跡	2条	(羽口ほか)、銭貨、キセル、石器				
			柱穴列	1基					
		時期不明	塚墳	7基					
			1坑	3基					
			溝跡	21条					
古代以降	柱穴	84個							
	溝跡	4条							
倉沢Ⅲ区Ⅱ遺跡		縄文時代	土坑	5基	縄文土器(後～晩期)、土製品、石器、石製品、種子				
		近世以降	陥し穴状遺構	2基					
			カマド状遺構	4基					
		時期不明	1坑	3基					
			溝跡	1条					
			掘立柱建物跡	2棟					
柱穴	178個								
要 約	倉沢Ⅲ区Ⅰ 段丘上の斜面地に平安時代の竪穴住居1棟、近世以降の可能性が高い溝跡が多数検出された。								
	倉沢Ⅲ区Ⅱ 段丘上の斜面地、湿地への縁辺部に縄文時代の1坑、陥し穴状遺構が並んで検出された。また、カマド状遺構、掘立柱建物跡等、近世以降の生活の場としても利用されていたと考えられる。								

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第526集

## 倉沢3区Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道釜石秋田線新直轄事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成21年2月2日

発行 平成21年2月5日

編集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地  
電話 (019) 638-9001

発行 国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所  
〒020-0066 岩手県盛岡市上田4丁目2-2  
電話 (019) 624-3131

(財)岩手県文化振興事業団  
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号  
電話 (019) 654-2235

印刷 (有)小松茂印刷所  
〒020-0025 岩手県盛岡市大沢川原二丁目5-37  
電話 (019) 623-6073

